



ほかにはない
アンサーを。

オリックス株式会社

2022年3月期第3四半期 決算説明会

執行役 財経本部長

矢野 人磨呂

2022年2月7日

(1) 当期純利益/ROE

当期純利益2,113億円（前年同期比+48.8%）、**ROE（年換算）9.1%**

通期純利益予想（3,100億円*）に対する進捗率は68.2%

単3Qの利益は647億円（前年3Q比+34.2%）

ORIX USAとORIX Europeが過去最高益、海外を中心に利益成長

* 2021年12月17日に業績予想と配当予想を修正

(2) キャピタルリサイクリング（資産の入れ替え）

再生可能エネルギー事業やPE投資を中心に1兆円のパイプライン

市況を捉えた資産の入れ替えを継続

(3) 信用格付

コロナ禍でも収益を維持、強固な事業基盤が評価され、格付機関5社中4社が上方修正

リーマンショック以降、D/Eレシオをコントロールしながら、ROEの成長を実現

(4) 株主還元

弥生の譲渡もあり（売却益見込み1,632億円/税前）、**配当予想*を修正**

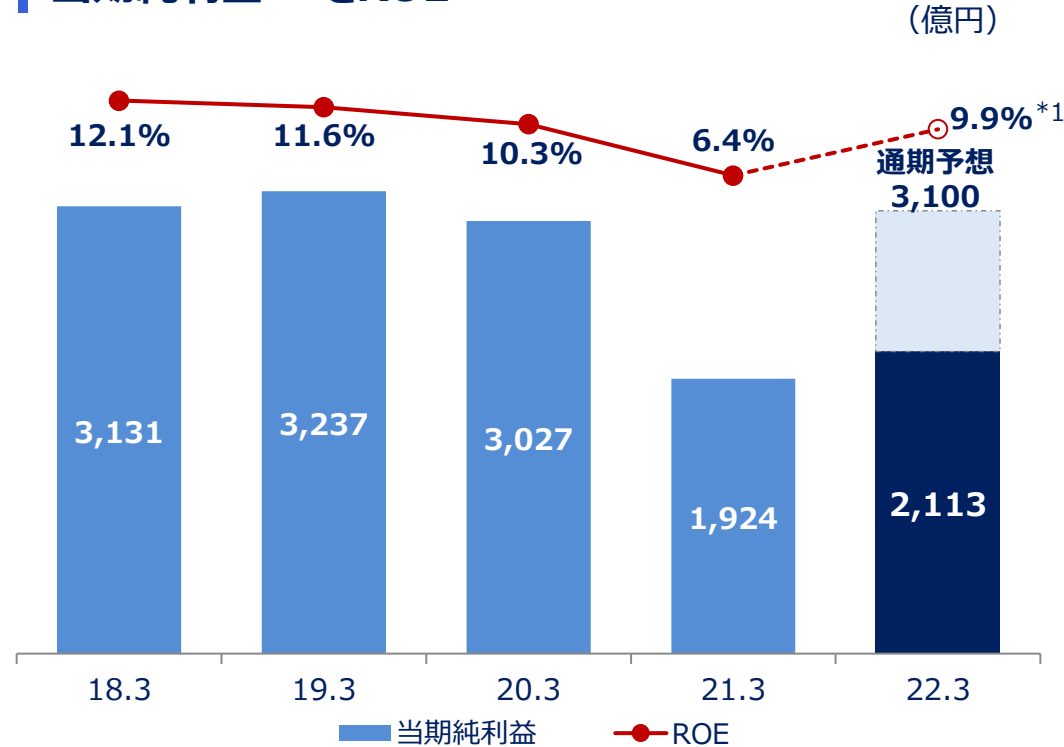
当期純利益が2,850億円以上の場合、1株当たり配当は78円以上となり過去最高

(1) 当期純利益/ROE

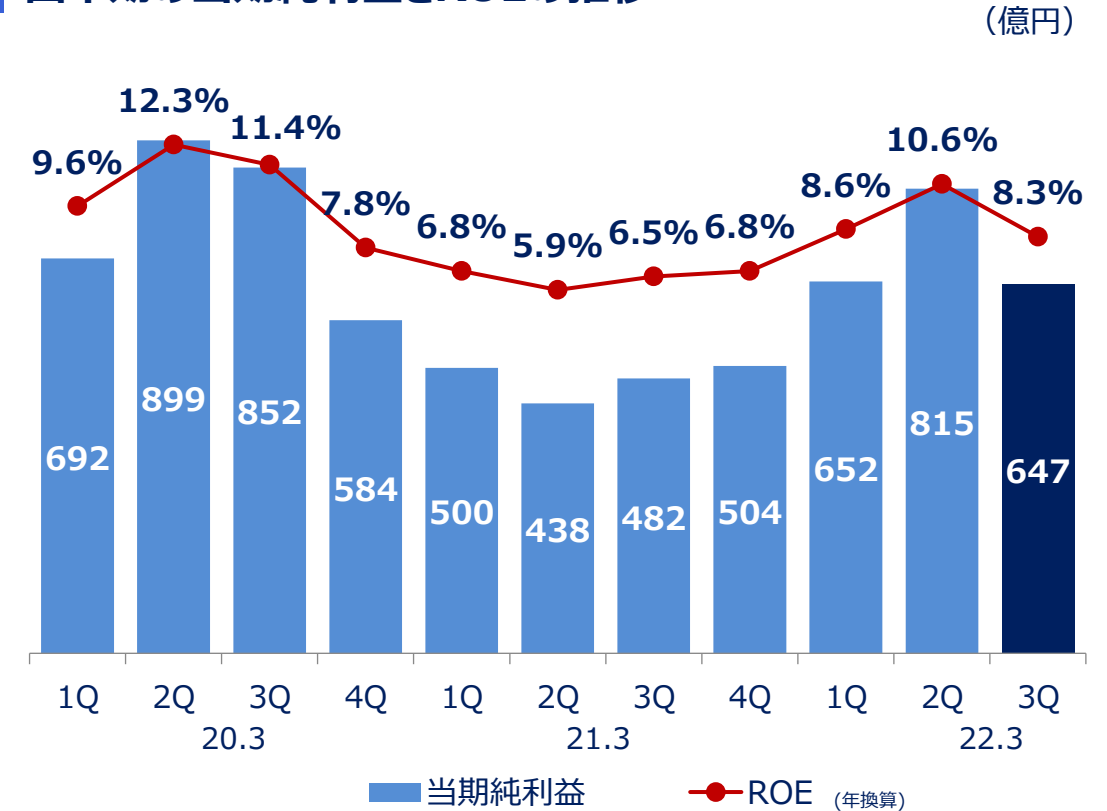
- ✓ 当期純利益は 2,113億円（前年同期比+48.8%、進捗率*1 68.2%）、ROE（年換算）は 9.1%
- ✓ 単3Qは647億円、投資先の損失計上等で前Q比減益だが、前年3Q比+34.2%
- ✓ 通期のEPSが過去最高（257円 *1）となる見込み

*1 通期純利益予想は3,100億円

当期純利益 *2 とROE



四半期の当期純利益とROEの推移

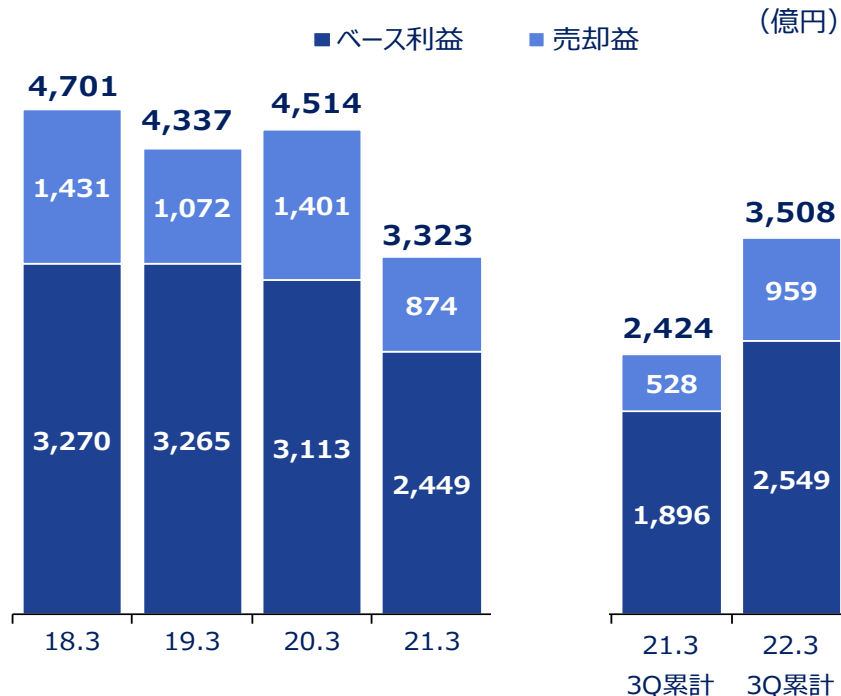


*2 「当期純利益」は「当社株主に帰属する当期純利益」を指す

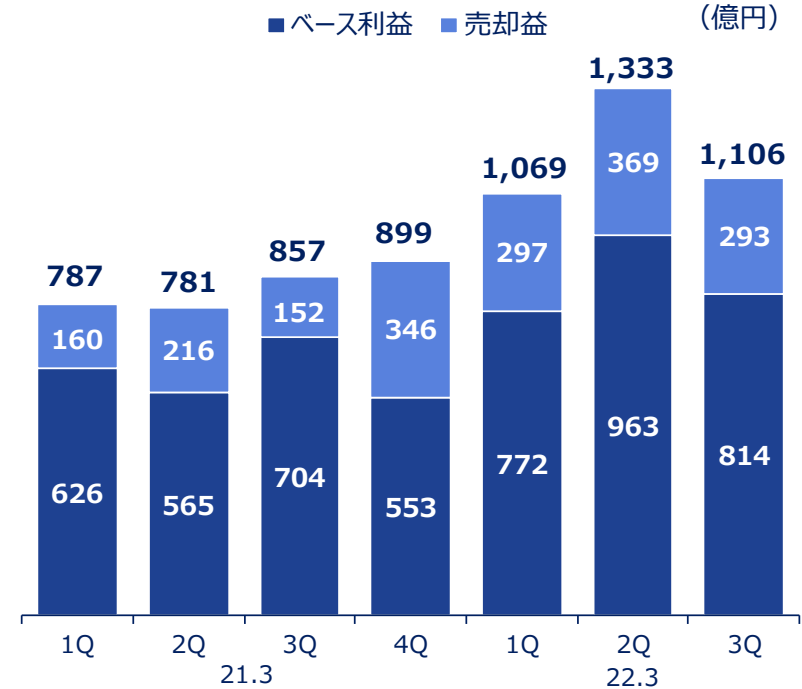
3Q累計セグメント利益の内訳

22.3期 3Q累計 セグメント利益 3,508億円 前年同期比 +44.7% (+1,084億円)	うち ベース利益	2,549億円 前年同期比 +34.4% (+653億円) ORIX EuropeやORIX USAがアセットマネジメントの拡大で成長したほか、法人営業・メンテナンスリース、アジア・豪州、不動産も好調
	うち 売却益*	959億円 前年同期比 +81.6% (+431億円) ORIX USAのPE売却、不動産の物流施設売却のほか、法人営業・メンテナンスリースも貢献

セグメント利益（通期及び3Q累計）



セグメント利益（四半期）



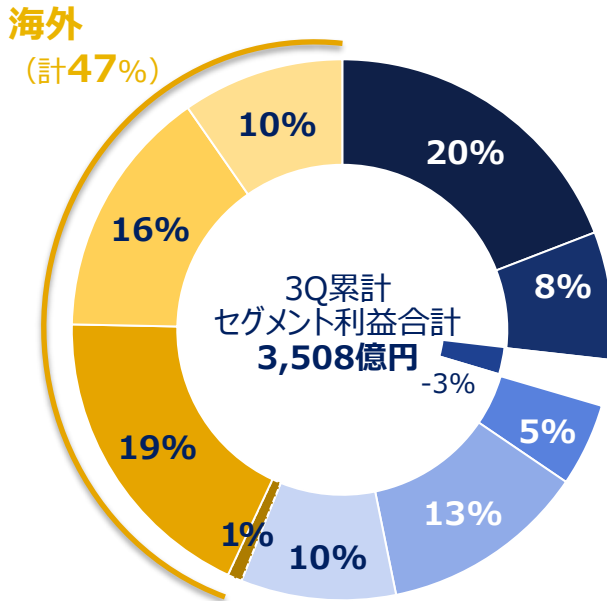
*主な売却益：賃貸不動産売却益、子会社・関連会社株式売却益、有価証券売却益など。売却益の内訳はP.39をご参照ください。

セグメント利益

- ✓ 21.3同期比: 欧州、米国、アジアを中心に6セグメントが増益、全体でも利益を大きく伸ばす (+1,084億円)
- ✓ 20.3同期比: コロナ影響の小さい7セグメントが大幅増益、3セグメントはコロナ後の回復余地大

(億円)

セグメント別利益構成



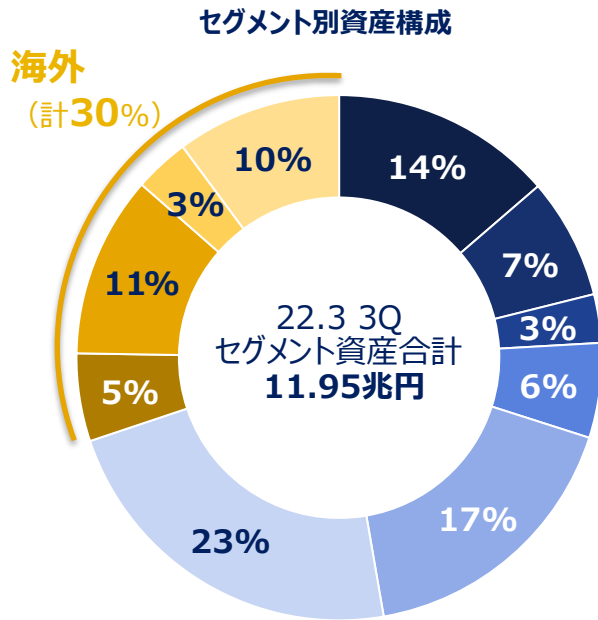
	22.3 1Q	22.3 2Q	22.3 3Q	前Q比	22.3 3Q累計	21.3 同期比	20.3 同期比	ハイライト
1 法人営業・メンテナンスリース	203	321	187	▲ 135	711	+206	+121	自動車・レンタックが好調。法人営業はセーフターの売却益等で前年同期比増益
2 不動産	110	128	40	▲ 88	279	+113	▲ 312	物流施設を中心に売却益を伸ばし前年同期比増益
3 事業投資・コンセッション	3	16	▲ 121	▲ 136	▲ 102	▲ 148	▲ 542	PE投資1件で減損を計上し減益だが、本件以外の投資先は好調
4 環境エネルギー	45	52	88	36	184	+14	+69	ベトナムの再エネ会社の売却益に加え、Greenko等の業績取込みで増益
5 保険	155	175	127	▲ 48	457	▲ 59	+12	旧ハートフォード生命を除けば増益
6 銀行・クレジット	128	93	124	31	344	▲ 40	+36	銀行が増益だが、クレジットは前期に信用損失費用の戻り益を計上した反動で減益
7 輸送機器	▲ 48	54	26	▲ 29	32	▲ 11	▲ 296	船舶が好調。航空機はマーケットの回復を受け業績上向き
8 ORIX USA	252	225	206	▲ 18	682	+431	+223	PE投資をはじめ各事業が伸び、3Q時点で通期の過去最高益を上回る水準
9 ORIX Europe	135	151	276	125	562	+291	+301	AUMが過去最高を更新したうえ、3Qにパフォーマンスフィーを計上し大幅増益
10 アジア・豪州	88	117	154	37	359	+287	+121	韓国、中国で金融収益が伸び増益
合計	1,069	1,333	1,106	▲ 226	3,508	+1,084	▲ 266	-

セグメント資産

- ✓ 継続的な新規投資・新規開発により資産増加
- ✓ セグメント資産ROA（年換算）が2.4%へ改善（前期末比+0.7%）

（億円）

		22.3 3Q	前期末比	ROA*	ハイライト
1	法人営業・メンテナンスリース	16,370	▲390	3.9%	案件厳選で貸付金とリースの残高が減少
2	不動産	8,881	+160	2.9%	物流施設等の新規開発が売却を上回り増加
3	事業投資・コンセッション	3,569	▲218	▲3.6%	投資先1件で減損を計上し資産減少
4	環境エネルギー	6,970	+2,078	2.8%	Elawanの買収により大幅増
5	保険	20,735	+1,140	2.2%	保険契約の増加に伴い、運用資産が増加
6	銀行・クレジット	26,982	+76	1.2%	おおむね横ばい
7	輸送機器	6,459	+441	0.3%	航空機が減価償却・売却で減少したが、船舶がローンの実行により増加
8	ORIX USA	13,369	+1,168	5.6%	アセットマネジメント事業で売却予定資産の買い入れにより一時的に増加
9	ORIX Europe	4,051	+355	14.5%	投資有価証券が増加
10	アジア・豪州	12,134	+1,291	3.1%	韓国、中国でリースの新規実行が伸び増加
合計		119,519	+6,101	2.4%	—



*セグメント資産ROAは、ユニット毎の税引後利益を用いて算出

(2) キャピタルリサイクリング（資産の入れ替え）

- ✓ 再生可能エネルギー事業やPE投資を中心に1兆円のパイプライン
- ✓ 市況を捉えた売却を継続、ROEを上げながら資産を入れ替え

1兆円のパイプライン

環境エネルギー **2,000億円**
国内外・再生可能エネルギー事業への投資案件

PE投資 **4,000億円**
日本・米国を中心に大型案件も検討

物流施設/ほか不動産 **2,000億円**
首都圏で開発中案件多数、再エネ/省エネ・ノウハウ活用

大阪MICE-IR **2,000億円**
2022年4月頃に区域整備計画申請予定

市況を捉えた売却

22.3期3Q
米国のPE投資で複数の売却益を実現
ベトナムの再生可能エネルギー会社を売却

22.3期4Q（予定）
弥生をKKRへ譲渡、過去最大規模の売却益を見込む *1
小林化工の設備等をサワイグループホールディングスへ譲渡 *2

*1 2021年12月17日の発表通り。売却益見込みは1,632億円（税前）

*2 2021年12月3日に同社が発表した通り。

(3) 信用格付

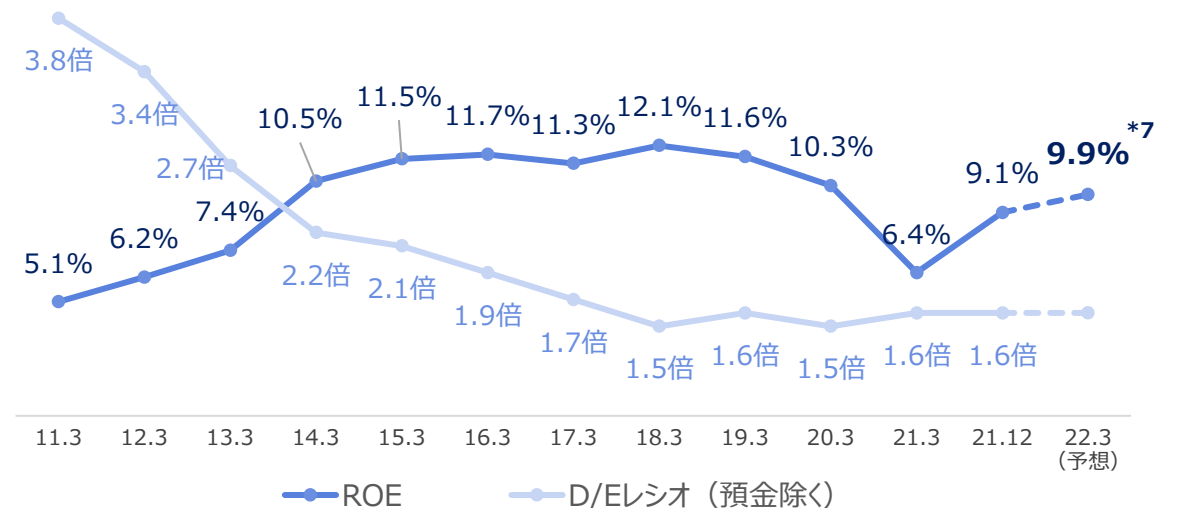
- ✓ コロナ禍でも一定の収益を維持、強固な事業基盤が評価され、格付機関 5 社中 4 社が上方修正
- ✓ リーマンショック以降、D/Eレシオをコントロールしながら、ROEの成長を実現

格付一覧

	2021年3月末	2022年1月末
S&P	A- (ネガティブ)	A- (安定的) *1
Moody's	A3 (ネガティブ)	A3 (安定的) *2
Fitch	A- (ネガティブ)	A- (安定的) *3
R&I	AA- (安定的)	同左
JCR	AA- (安定的)	AA (安定的) *4

*1 2021年8月にアウトルック上方修正
 *2 2021年12月にアウトルック上方修正
 *3 2021年12月にアウトルック上方修正
 *4 2022年1月に格上げ

D/Eレシオ *5 ・ROE *6

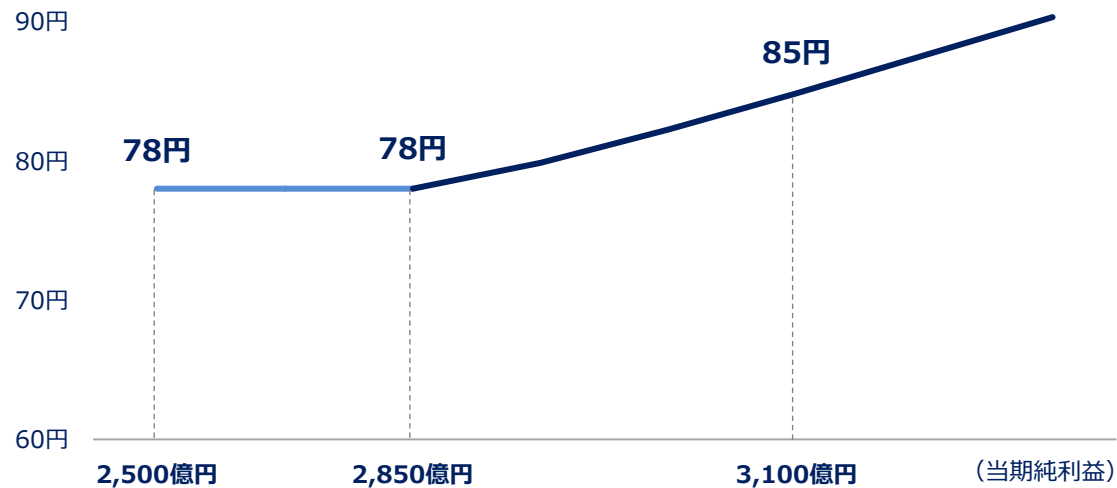


*5 銀行・生命を除く
 *6 21.12のROEは年換算
 *7 通期利益3,100億円の場合

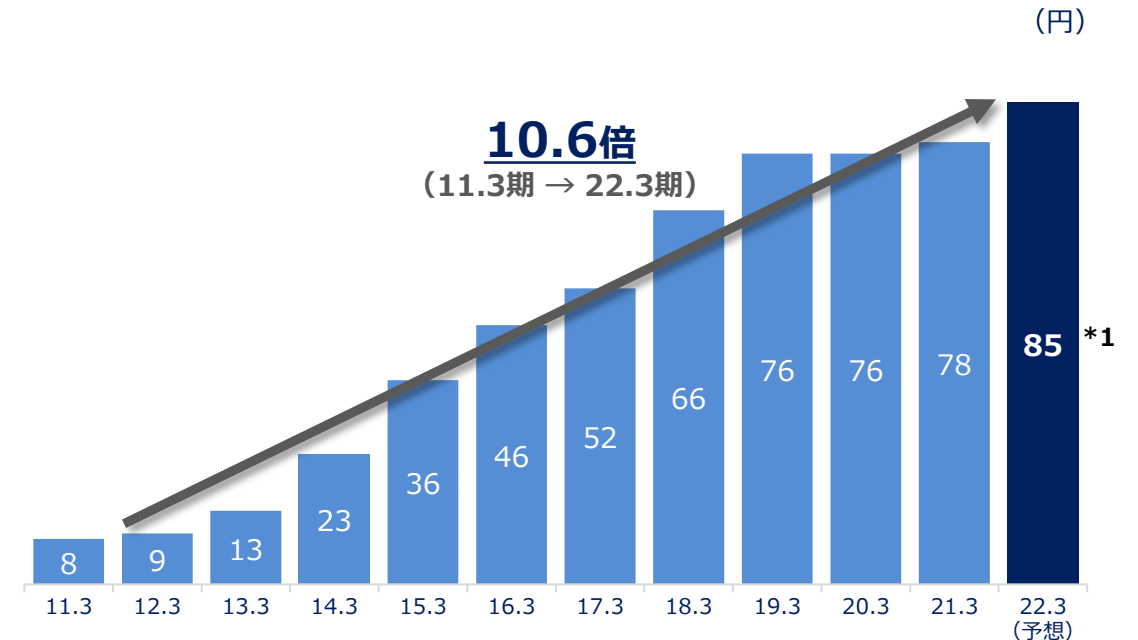
(4) 株主還元

- ✓ 弥生の譲渡もあり、配当予想を修正 (78円 → 78円または配当性向33%の高い方)
- ✓ 当期純利益が2,850億円以上の場合、1株当たり配当は78円以上となり過去最高

修正後・配当予想 (22.3期)



1株当たり配当の推移 (11.3期～)



*1 通期利益3,100億円の場合

(※) 自社株買いを含む株主還元については、P.42ご参照。

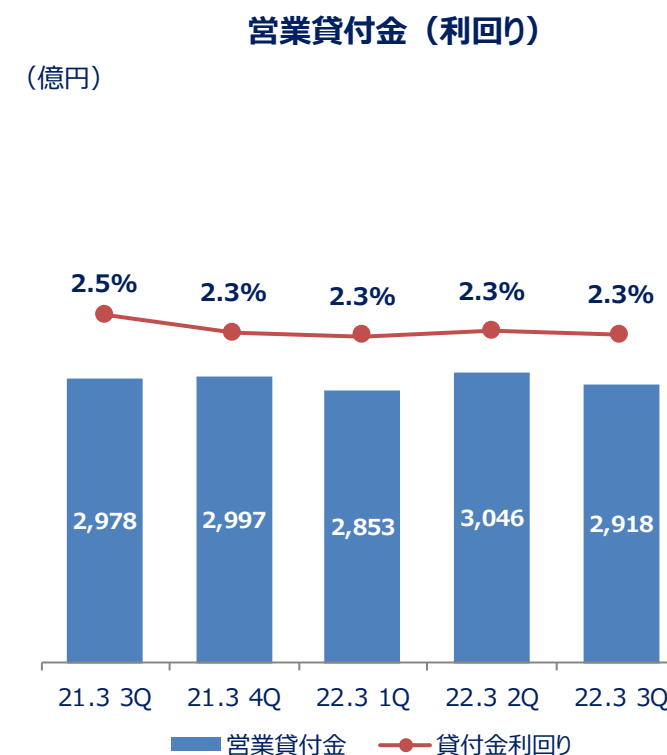
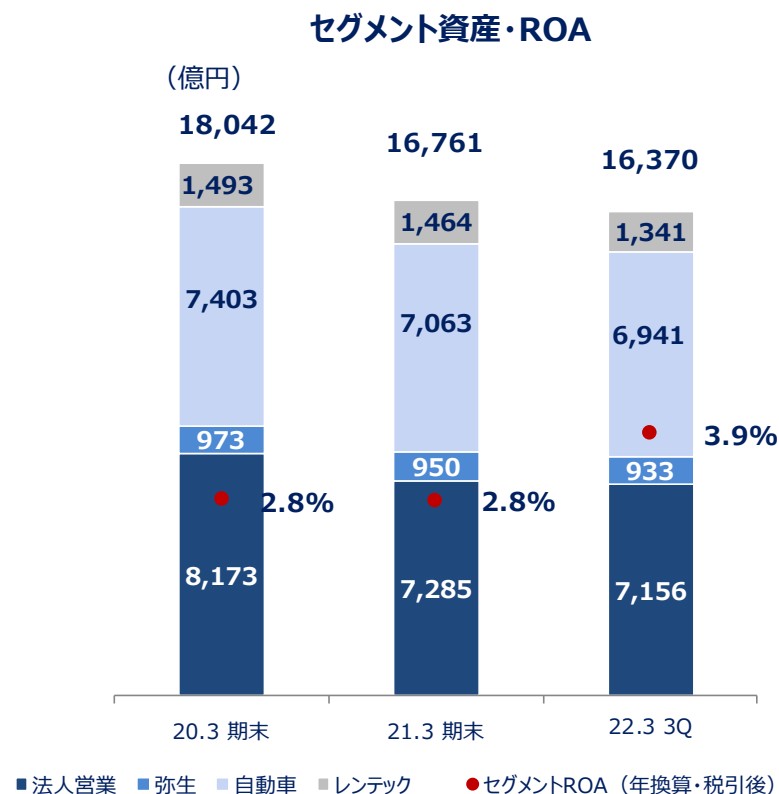
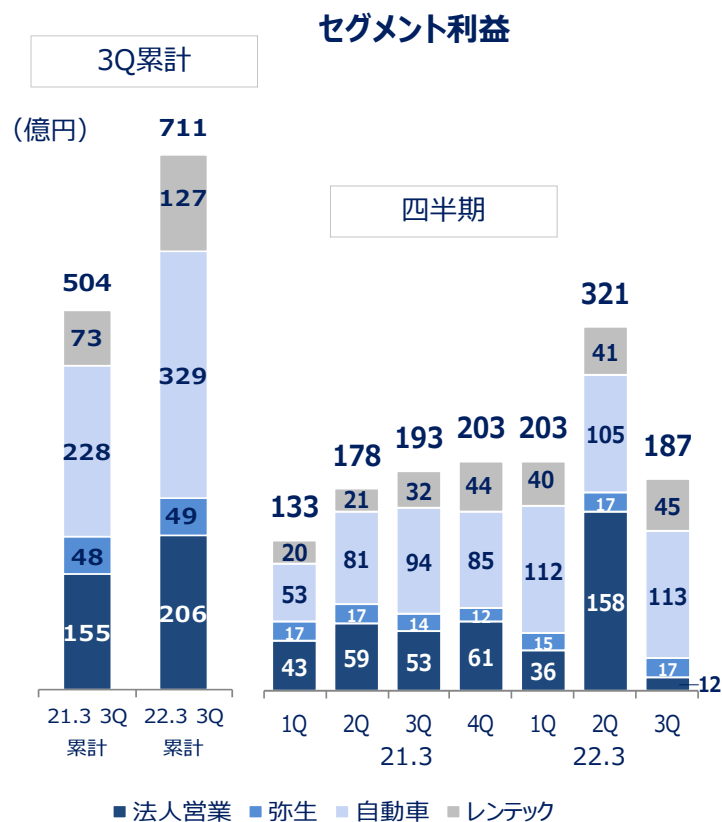
セグメント実績

3Q累計セグメント利益：711億円 前年同期比 +206億円 (+41%)

- ✓ 法人営業は、2Qにセーフイーの売却益・評価益を計上
- ✓ 自動車は、中古車売却が好調なうえ、収益性重視の営業方針で大幅増益
- ✓ レンテックは、5G関連はじめレンタル収益が伸び利益倍増

セグメント資産：16,370億円 前期末比 ▲390億円 (▲2%)

- ✓ 低金利環境下、案件を厳選しており、貸付金とリース資産が減少



貸付金利回り = 金融収益のうち貸付金利息 ÷ 営業貸付金の平残

法人営業・メンテナンスリース事業について

✓ セグメント事業内容：金融、各種手数料ビジネス、自動車や電子計測器・ICT関連機器などのリースおよびレンタル

法人営業	自動車	レンテック								
<p>中堅・中小企業向けリース・融資・各種ソリューションを提供</p>	<p>リース、レンタカー、カーシェアリングを展開</p>	<p>電子計測器・ICT関連機器などのレンタルと専門サービス</p>								
<p>営業ネットワーク 全国展開</p>	<p>車両管理台数 140.7万台^{*1}</p>	<p>保有レンタル機器 3.4万種、220万台^{*3}</p>								
<p>グループ営業の中核的なプラットフォームの役割を担う 【シナジー例】</p> <table border="1" data-bbox="147 892 1243 1182"> <thead> <tr> <th data-bbox="198 892 428 963">不動産</th> <th data-bbox="453 892 682 963">事業投資</th> <th data-bbox="708 892 937 963">環境エネルギー</th> <th data-bbox="963 892 1192 963">輸送機器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="198 963 428 1182"> <ul style="list-style-type: none"> 不動産の仲介や買取サービスで連携 </td> <td data-bbox="453 963 682 1182"> <ul style="list-style-type: none"> PE投資先を法人顧客へ紹介 事業承継支援で連携 </td> <td data-bbox="708 963 937 1182"> <ul style="list-style-type: none"> 法人顧客の自家発電やPPA導入で連携 新電力として法人顧客に電力供給 </td> <td data-bbox="963 963 1192 1182"> <ul style="list-style-type: none"> 航空機や船舶への投資を法人顧客へ紹介 </td> </tr> </tbody> </table>	不動産	事業投資	環境エネルギー	輸送機器	<ul style="list-style-type: none"> 不動産の仲介や買取サービスで連携 	<ul style="list-style-type: none"> PE投資先を法人顧客へ紹介 事業承継支援で連携 	<ul style="list-style-type: none"> 法人顧客の自家発電やPPA導入で連携 新電力として法人顧客に電力供給 	<ul style="list-style-type: none"> 航空機や船舶への投資を法人顧客へ紹介 	<p>幅広い商品・サービスを展開、複合的な提案力が強み</p> <ul style="list-style-type: none"> リース（国内車両管理台数 業界No.1^{*2}） レンタカー（車両台数 業界No.2^{*2}） カーシェアリング（車両台数 業界No.3^{*2}） 	<p>国内最大規模の機器レンタル会社、専門サービスも展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 計測器・ICT関連機器のレンタル 3Dプリンタでの試作品造形受託 5G導入支援
不動産	事業投資	環境エネルギー	輸送機器							
<ul style="list-style-type: none"> 不動産の仲介や買取サービスで連携 	<ul style="list-style-type: none"> PE投資先を法人顧客へ紹介 事業承継支援で連携 	<ul style="list-style-type: none"> 法人顧客の自家発電やPPA導入で連携 新電力として法人顧客に電力供給 	<ul style="list-style-type: none"> 航空機や船舶への投資を法人顧客へ紹介 							

*1 2021年9月末時点

*2 オリックス自動車調べ(2021年12月末時点)

*3 2021年3月末時点

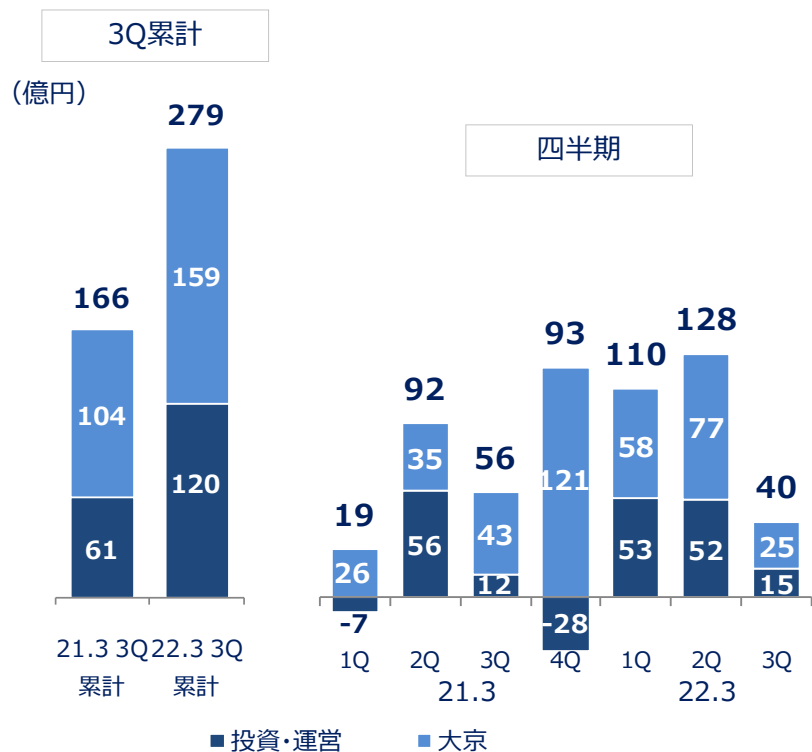
3Q累計セグメント利益：279億円 前年同期比 +113億円 (+68%)

- ✓ 物流施設等の開発・売却等により大幅増益
- ✓ 運営事業は、感染対策を徹底した運営により、関東近郊の旅館を中心に稼働率が向上、赤字幅縮小
- ✓ 大京は、新築マンション分譲増加に加え工事受注が伸び利益倍増

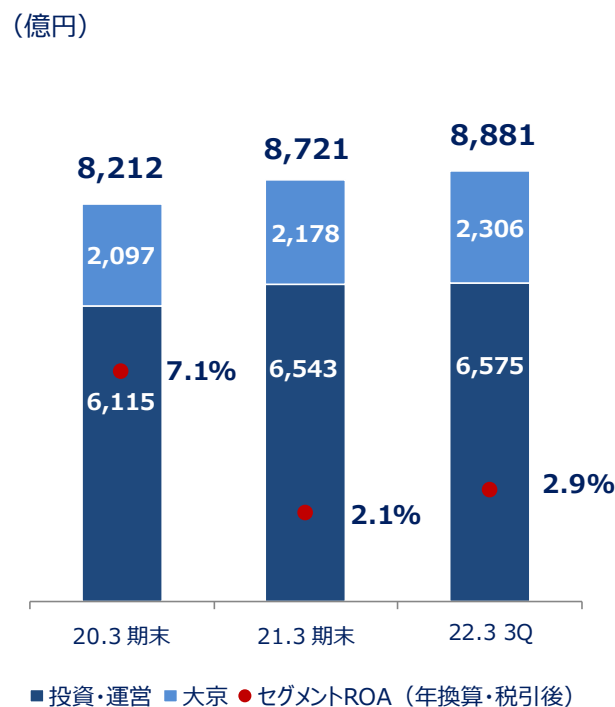
セグメント資産：8,881億円 前期末比 +160億円 (+2%)

- ✓ 物流施設等の新規開発が売却を上回り増加

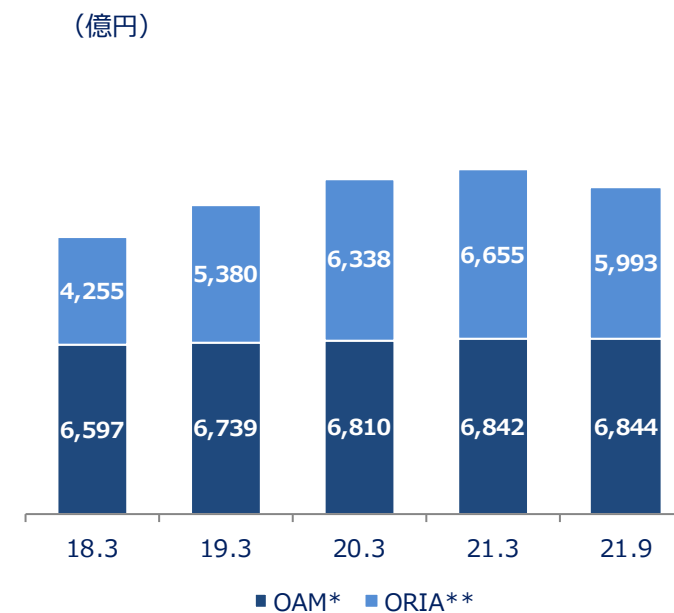
セグメント利益



セグメント資産・ROA



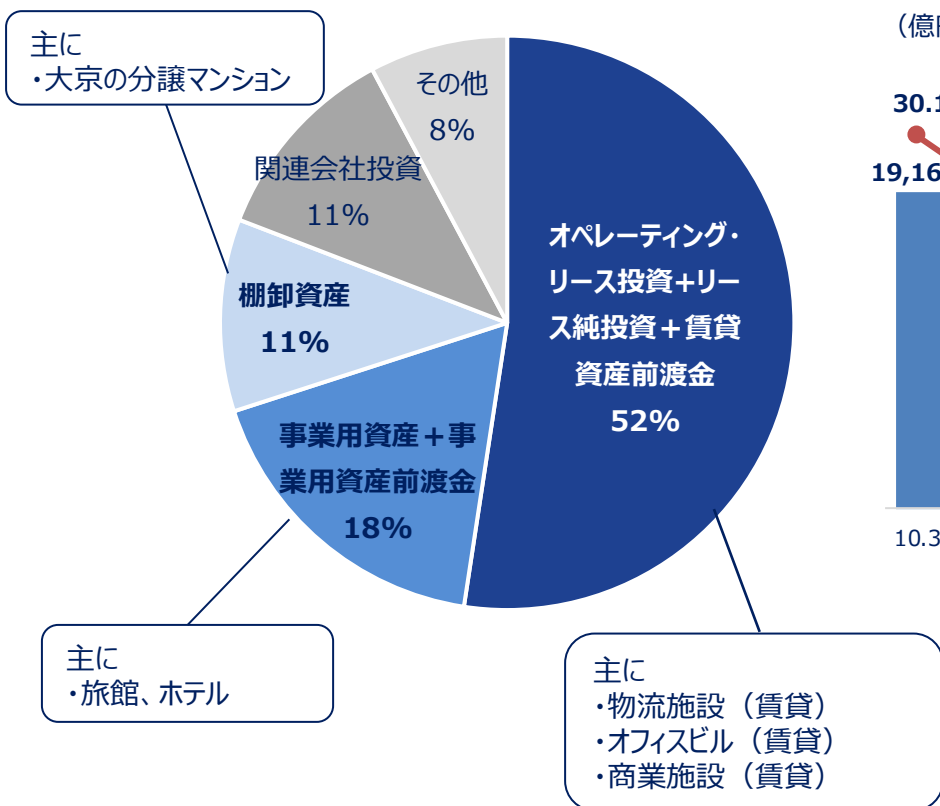
AUMの推移



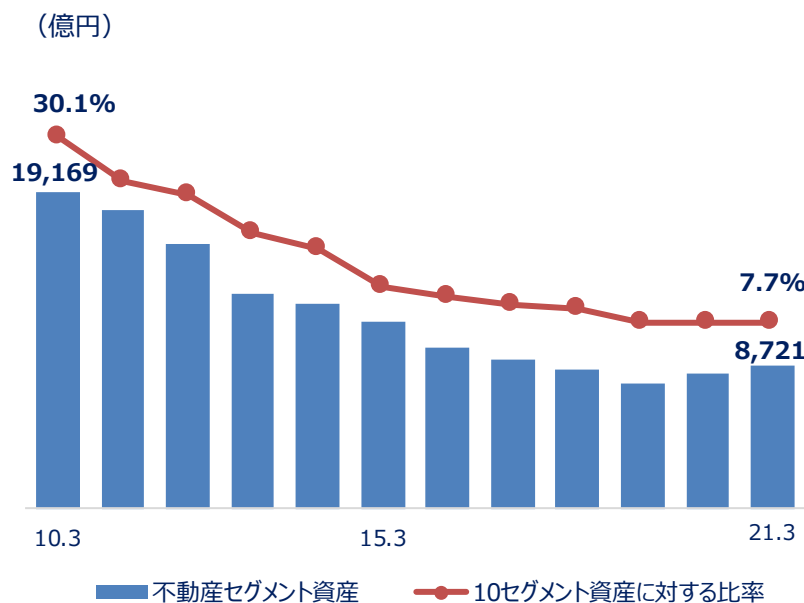
* オリックス・アセットマネジメント(株) (J-REIT) 毎年2月末時点の期末残高を同年3月末として掲載
 ** オリックス不動産投資顧問(株) (私募ファンド)

✓ セグメント事業内容：不動産開発・賃貸・管理、施設運営、不動産のアセットマネジメント

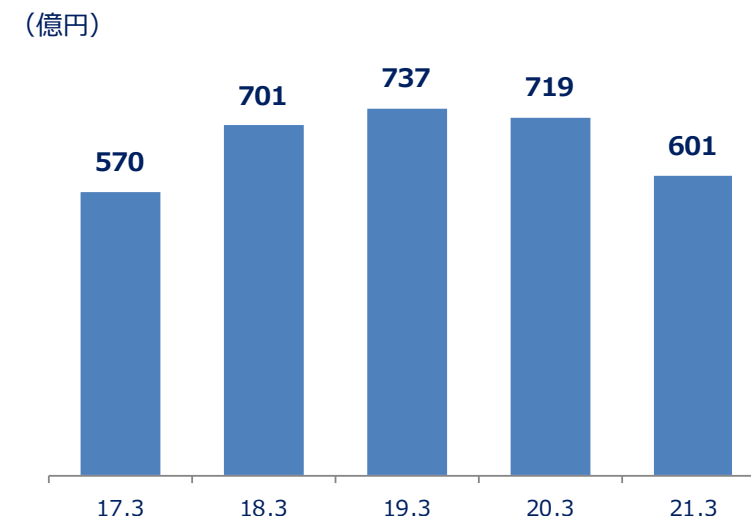
セグメント資産 (21.3期末)



セグメント資産の推移



賃貸不動産の含み益*



*不動産以外のセグメントの賃貸不動産も含む。運営事業の資産は含まない

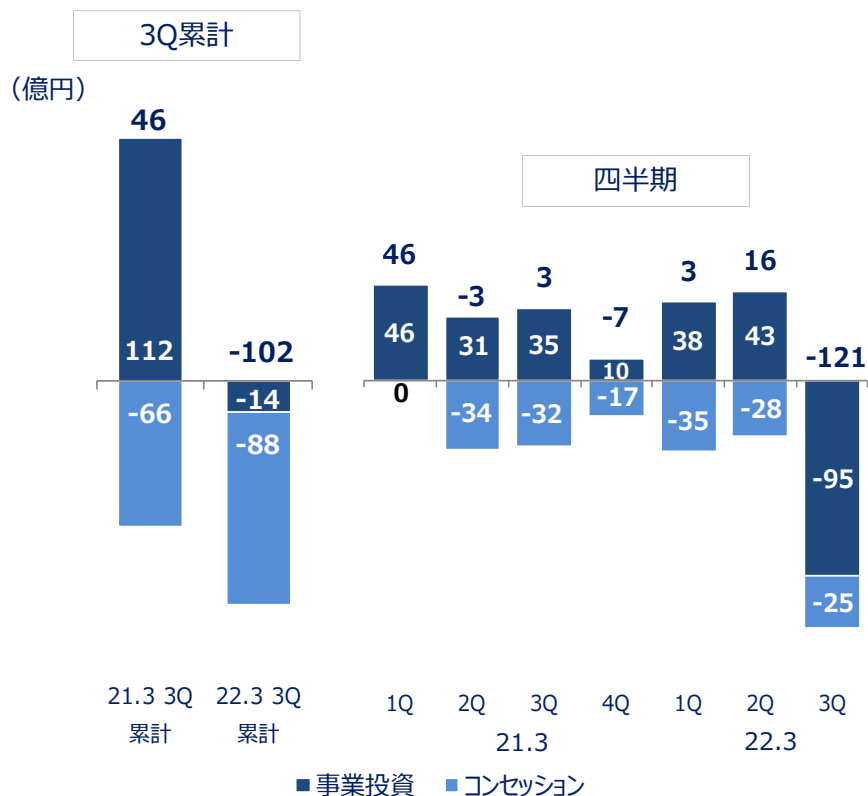
3Q累計セグメント利益 : ▲102億円 前年同期比 ▲148億円(▲324%)

- ✓ 小林化工の資産譲渡決定に関し減損を計上し減益
- ✓ 小林化工以外の投資先は好調
- ✓ コンセッションは、国際線が回復せず、赤字継続

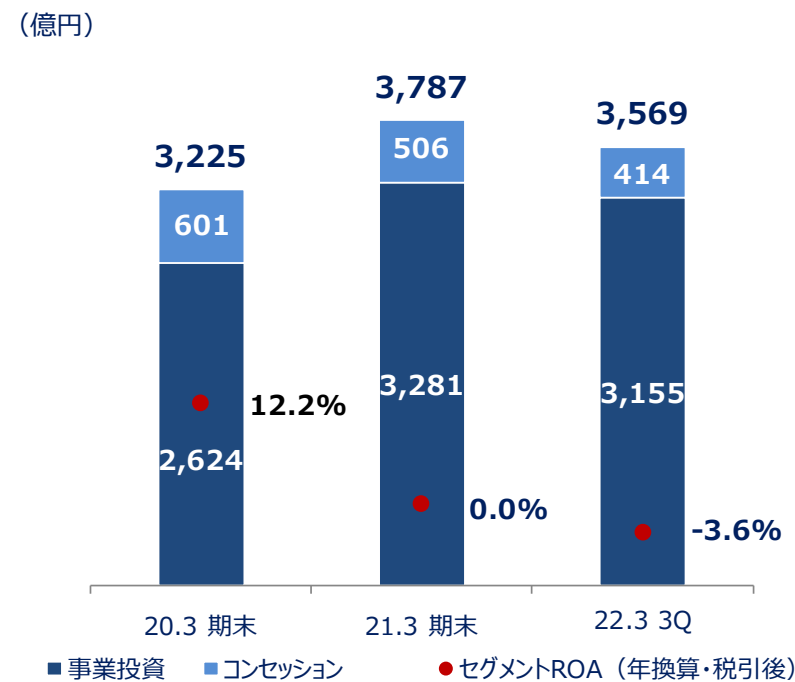
セグメント資産 : 3,569億円 前期末比 ▲218億円 (▲6%)

- ✓ 小林化工における減損計上や、コンセッションの損失取込み等で減少

セグメント利益



セグメント資産・ROA



- ✓ 事業投資の投資先は17件（2021年12月末時点）。オリックスグループの新たなビジネス・セグメントの構築を目指す

投資実績

幅広いネットワークおよび豊富な経験を生かし、優れた投資実績を誇る

投資対象	投資期間
中小型企业 に注力 (EV：数百億円)	1件あたり 3年～5年以上

実行案件数 (2012年以降)	投資実績
26件	IRR 30% 2012年以降の投資案件 (8件)のEXITの平均値

事業投資の特徴

資金力のみならず、幅広い業種における事業運営ノウハウを有する。対象会社のバリューアップを図りつつ、投資期間・投資形態に柔軟性をもつ

フレキシビリティ	PEファンドとは異なり自己資金での投資のため、柔軟な投資期間・投資形態が可能
実践的な支援	経営支援のための人材を送り込み、オリックスグループのネットワークを生かして事業成長のためにコワークする等、投資先企業と本質的な「パートナーシップ」を構築
シナジー	オリックスグループは、日本において強力な国内法人営業ネットワークを有する。ネットワークを活用した投資活動を通じて、多角的な事業ポートフォリオの構築に携わり、またグループでのシナジー効果を生み出す
注力分野	社会的課題の解決に資する、かつ成長が期待できる産業に着目し、物流、レンタル、IT・情報サービス、ヘルスケア、酪農等の産業に関しては重点的に投資を積み上げていく。注力分野では長期的な保有も行き、拡張性を追求すべくロールアップ等を積極的に行い、投資先間のシナジーも実現する

3Q累計セグメント利益：184億円 前年同期比 +14億円 (+8%)

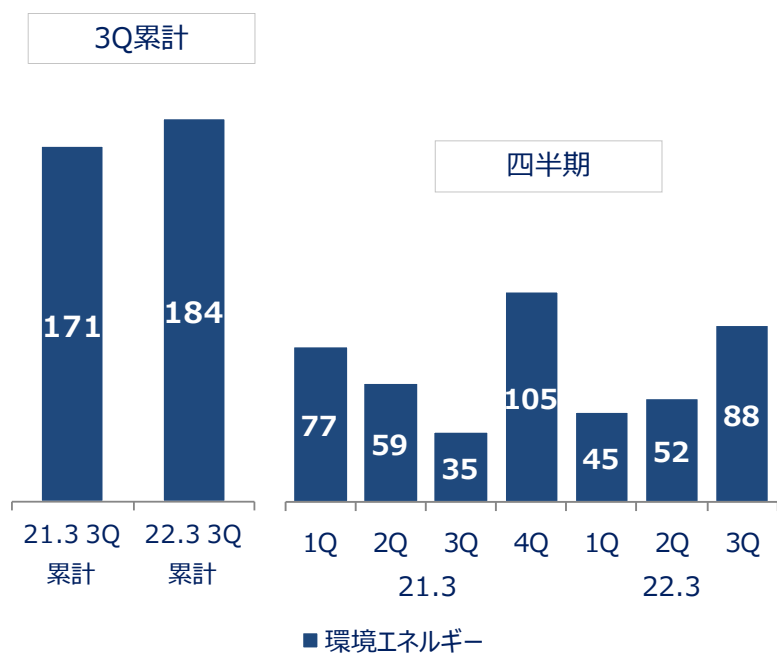
- ✓ Greenkoが2Qより、Elawanは3Qよりそれぞれ業績の取込みを開始
- ✓ ベトナムの再生可能エネルギー会社の売却益も寄与し増益

セグメント資産：6,970億円 前期末比 +2,078億円 (+42%)

- ✓ Elawanの買収により増加

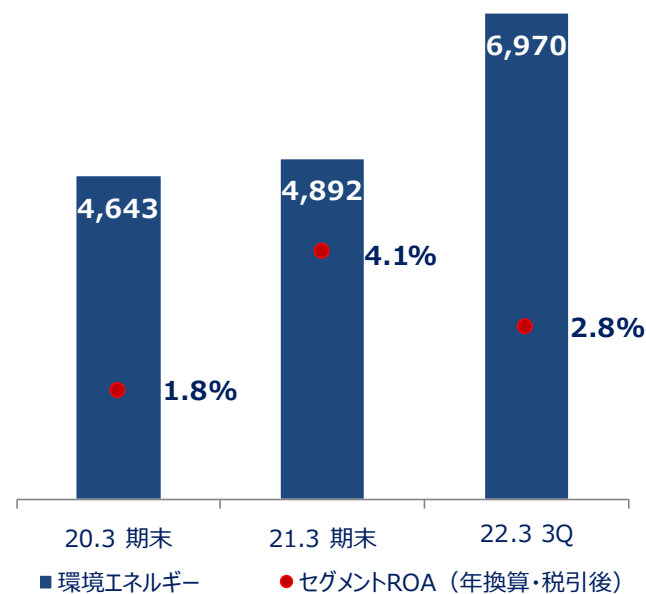
セグメント利益

(億円)



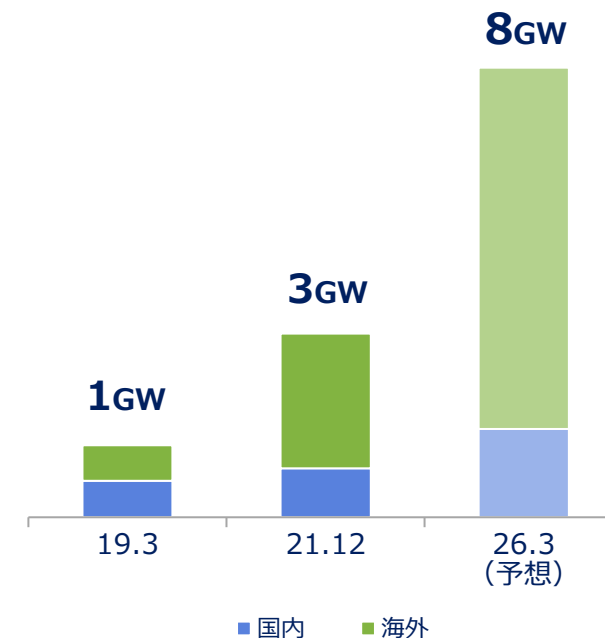
セグメント資産・ROA

(億円)



再エネ設備容量 (稼働中) の見通し*

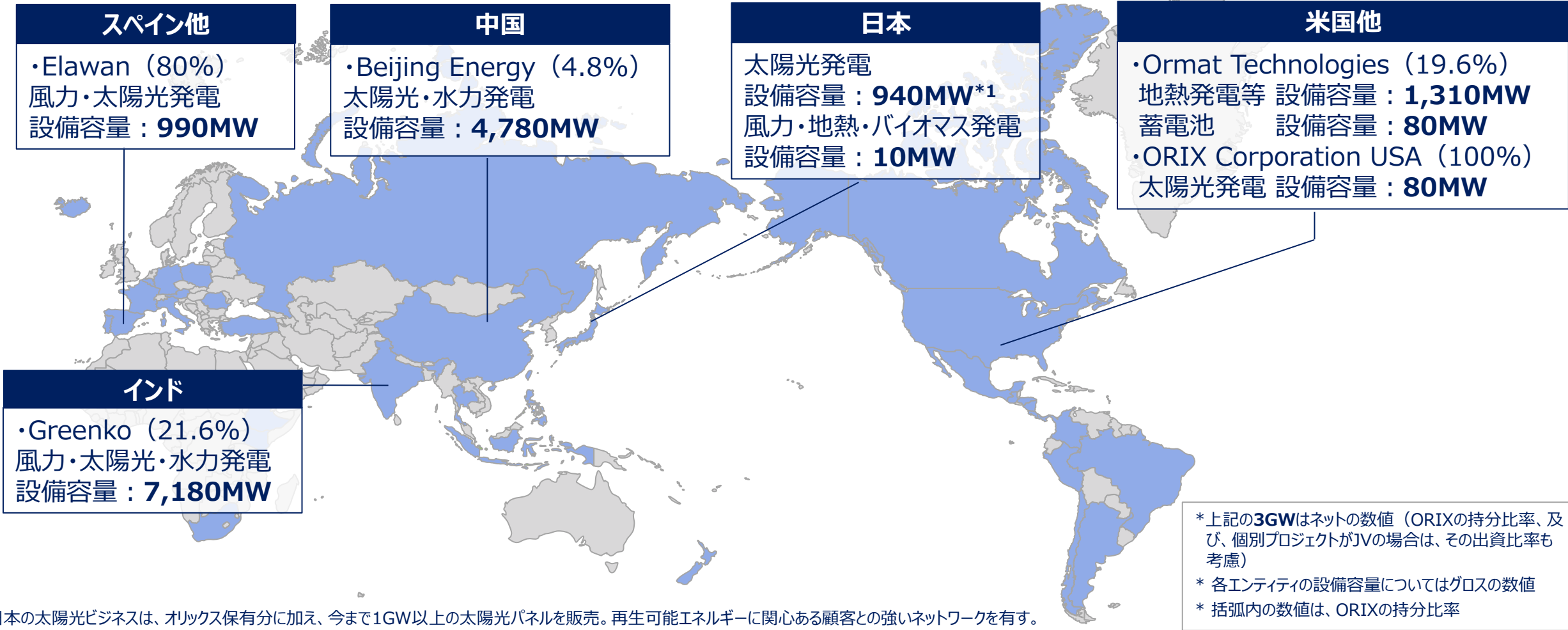
* ORIXの持分比率等、考慮後



再生可能エネルギービジネスについて

(2021年12月末時点)

- ✓ 稼働中の設備容量は全世界で**3GW***
- ✓ Greenko, Elawanを中心に約2GWのプロジェクトが建設中。パイプラインは、Greenko 8GW以上、Elawan 9GW以上



*1 日本の太陽光ビジネスは、オリックス保有分に加え、今まで1GW以上の太陽光パネルを販売。再生可能エネルギーに関心ある顧客との強いネットワークを有す。

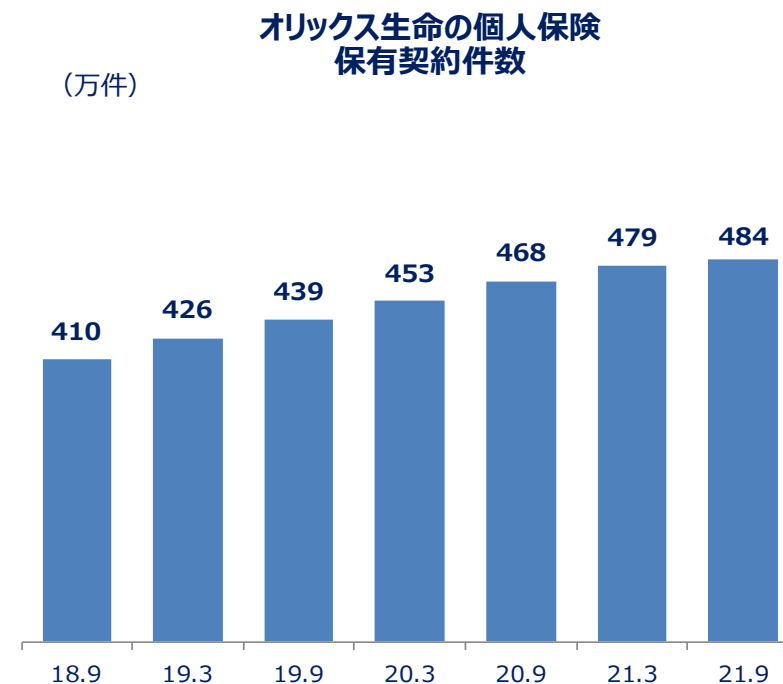
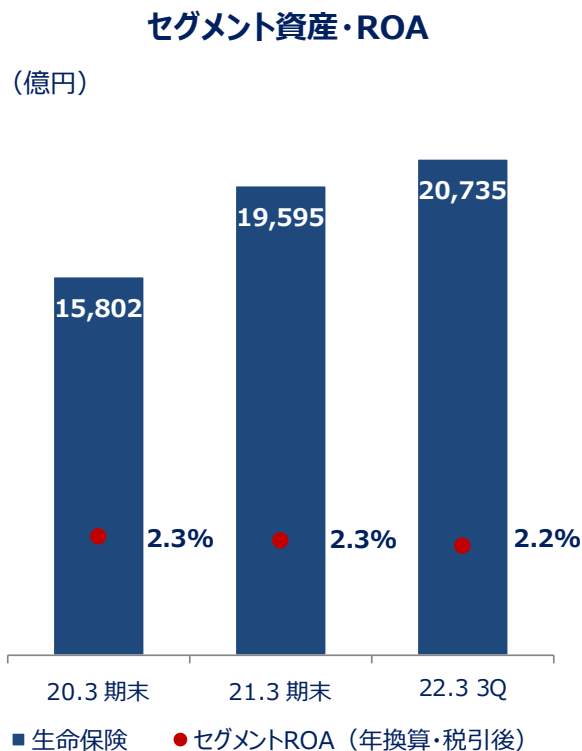
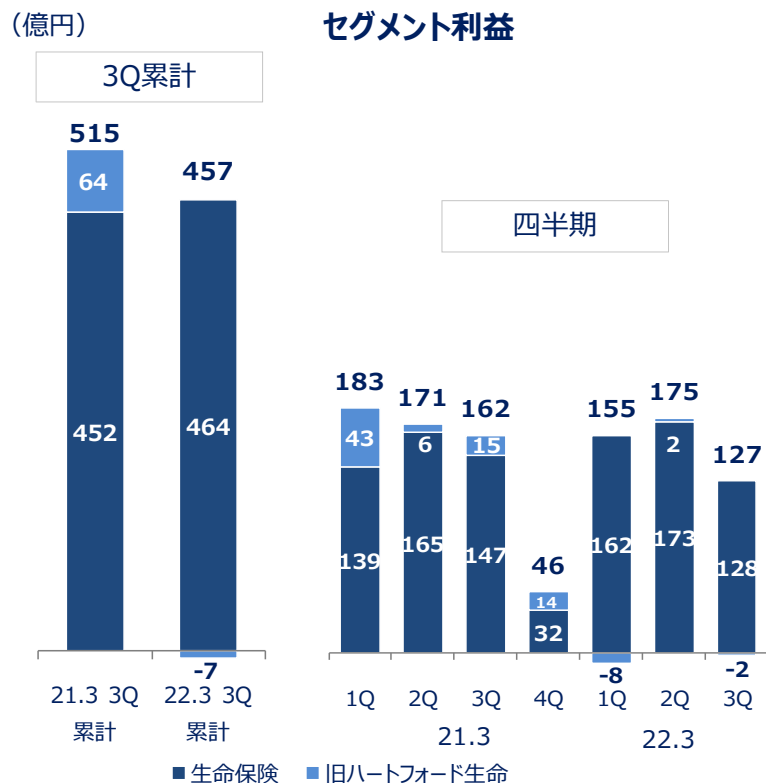
3Q累計セグメント利益：457億円 前年同期比 ▲59億円 (▲11%)

- ✓ オリックス生命は、保険契約の増加に伴い増益
- ✓ 旧ハートフォード生命* は、前期に責任準備金の戻入益を計上したが、今期は戻入益がなく減益

*ハートフォード生命： オリックス生命が2014年に買収後、2015年に合併手続きを完了した生命保険会社。

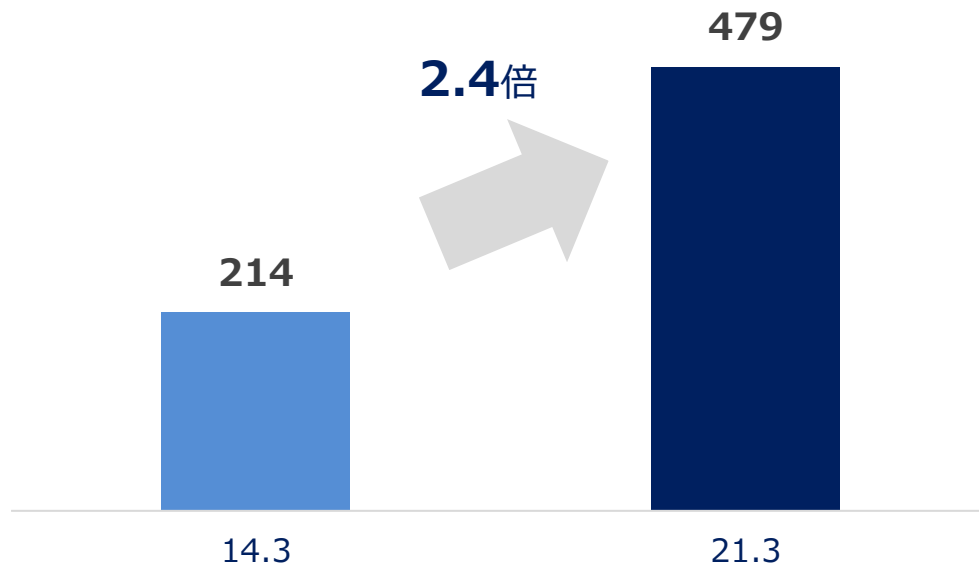
セグメント資産：20,735億円 前期末比 +1,140億円 (+6%)

- ✓ 保険契約の増加に伴い運用資産が増加



- ✓ 通信販売を含む複数の販売チャネルを推進、契約件数の伸びは業界全体を大きく上回る
- ✓ 医療保険CUREをはじめ第三分野中心のポートフォリオに、終身保険RISE、米ドル建終身保険Candle等の商品を新たに投入することで、よりバランスの取れたポートフォリオを実現

保有契約件数の推移* (万件)

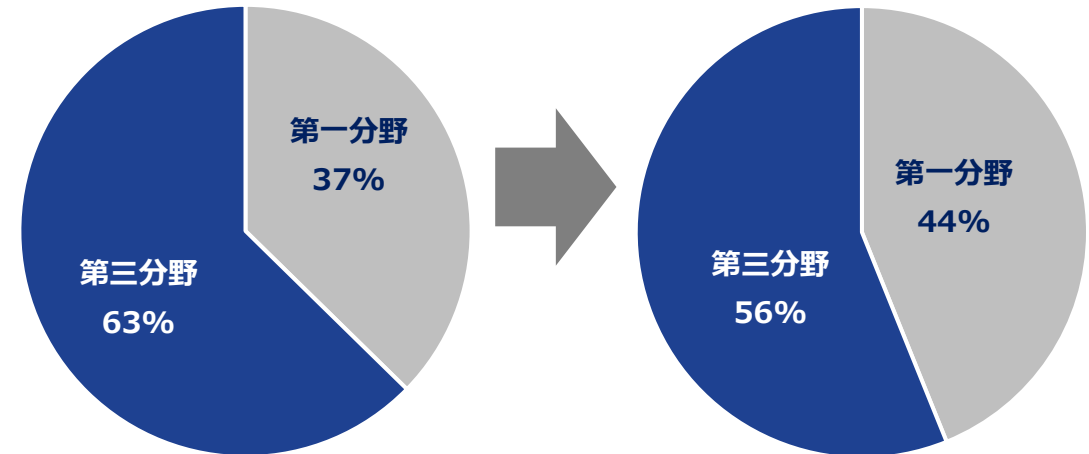


* 同期間にて、生命保険業界（全体）での増加率は1.3倍
（株式会社保険研究所「インシュアランス生命保険統計号」に基づき、当社にて集計）

第一分野と第三分野のポートフォリオの推移
（保有契約の年換算保険料）

14.3期

21.3期



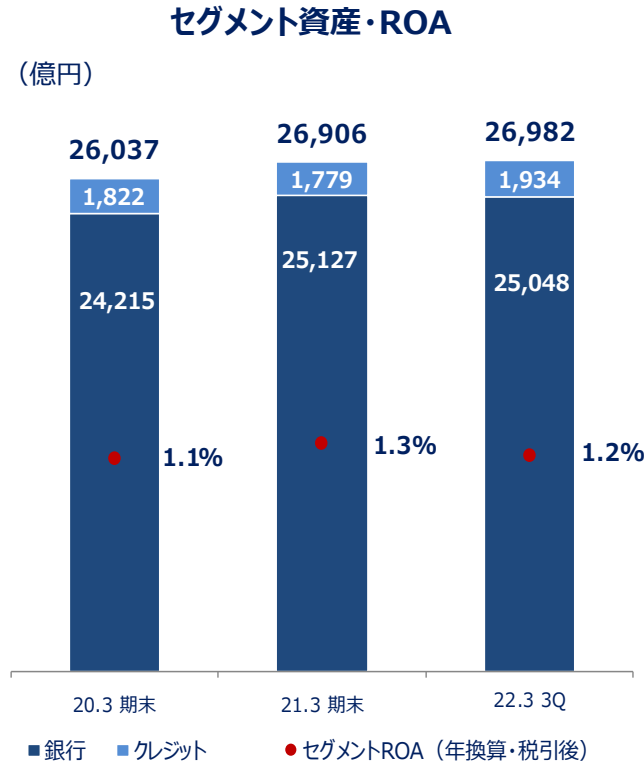
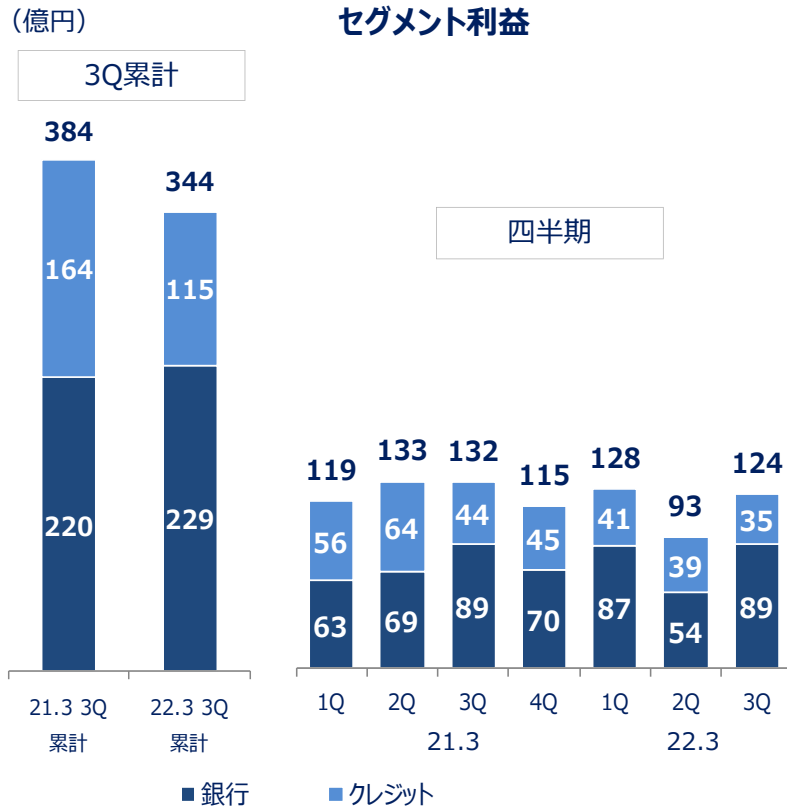
- ・第一分野（死亡保障など）
- ・第三分野（医療保険・がん保険など）

3Q累計セグメント利益：344億円 前年同期比 ▲40億円 (▲10%)

- ✓ 銀行は、投資用不動産ローンの金融収益が伸び増益
- ✓ クレジットは、前年同期にコロナ禍で資金需要低迷し信用損失費用の戻り益を計上したが、今期は戻り益なく減益

セグメント資産：26,982億円 前期末比 +76億円 (横ばい)

- ✓ 概ね横ばい



利回り・資金粗利鞘*

(2021年3月末時点)

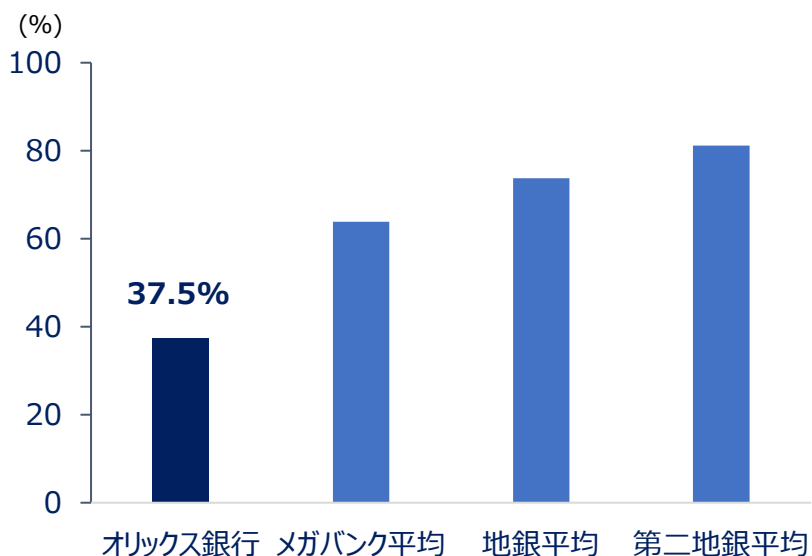
オリックス銀行 (単体)	
資金運用利回り	1.99%
資金調達利回り	0.18%
資金粗利鞘	1.81%

*オリックス銀行の決算開示資料にて公表の数値 (日本会計基準)

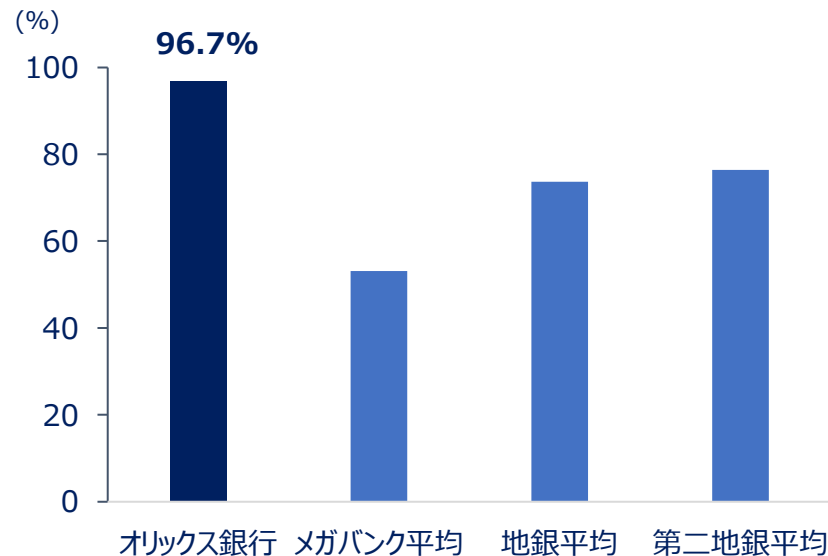
資金運用利回り = 資金運用勘定における利息(大半が貸付金利息) ÷ 平均残高
 資金調達利回り = 資金調達勘定における利息 ÷ 平均残高
 資金粗利鞘 = 資金運用利回り - 資金調達利回り

- ✓ オリックス銀行は、投資用不動産ローン等を中心にサービスを提供し、同業他社と比べ高いROE・ROAを実現
- ✓ 店舗網や口座決済機能、ATM機能を持たず、運営費を抑えたビジネスモデルで展開しているため、相対的に低い経費率、高い預貸率を維持

21.3期 経費率*



21.3期 預貸率*



21.3期 ROE/ROA*

	ROE	ROA
オリックス銀行	9.3%	0.7%
メガバンク平均	5.8%	0.2%
地銀平均	3.3%	0.1%
第二地銀平均	2.2%	0.1%

* 「経費率」、「預貸率」、「ROE/ROA」とも、全国銀行協会の「2020年度各行別財務諸表」に基づき当社にて集計。このうち「経費率」は、「営業経費」、「業務粗利益」から算出。

3Q累計セグメント利益：32億円 前年同期比 ▲11億円 (▲26%)

- ✓ 船舶が、海運市場の好調を捉え、売却やローンの実行により大幅増益
- ✓ 航空機は、航空旅客市場の回復を受け、業績上向き

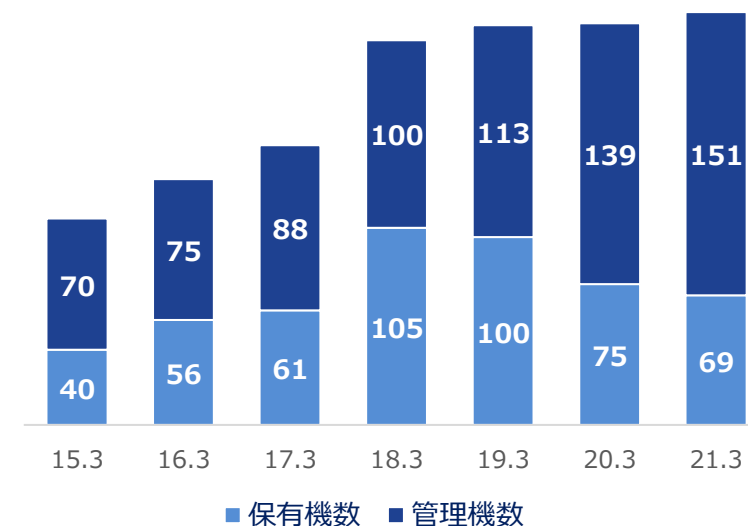
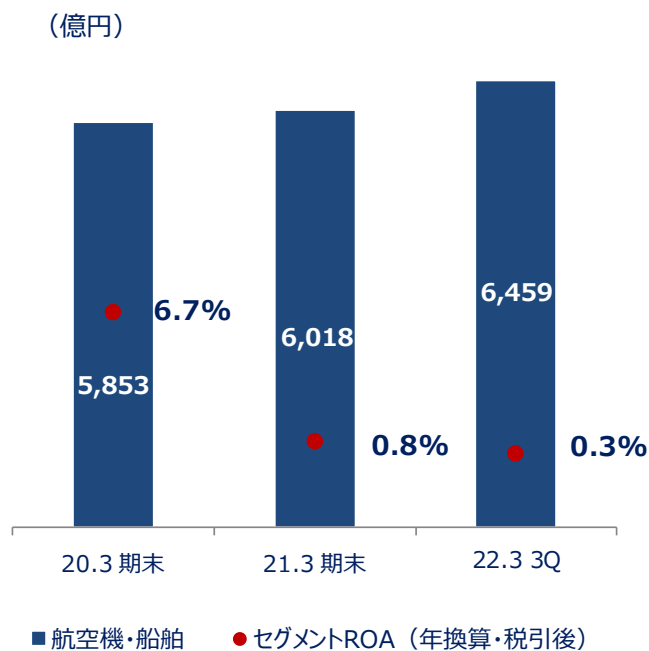
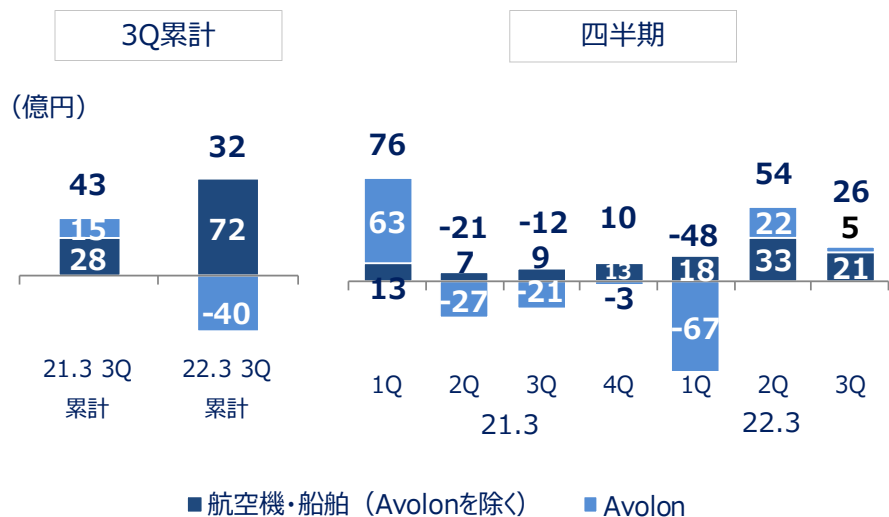
セグメント資産：6,459億円 前期末比 +441億円 (+7%)

- ✓ 船舶はローンの新規実行により資産増加
- ✓ 航空機は減価償却や売却で資産減少

セグメント利益

セグメント資産・ROA

オリックス航空機リース事業 保有管理機数の推移*



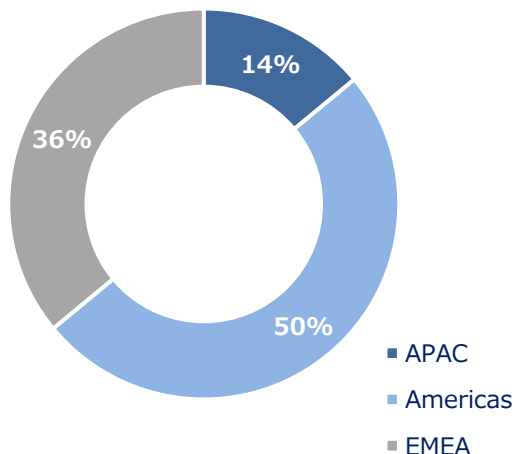
*Avolonを除く

航空機リース事業について

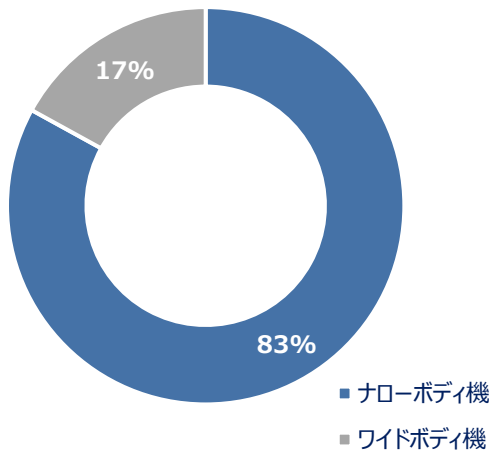
オリックス 航空機リース事業

- ✓ オリックス100%出資
- ✓ 中古マーケットが主力
- ✓ 機体購入アレンジメントや
アセットマネジメントサービス
- ✓ S&Pサービサー格付最上位
(Strong)

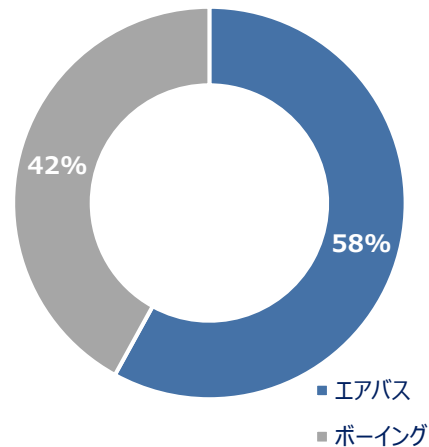
地域分布
(簿価ベース)



機種分布
(機数ベース)



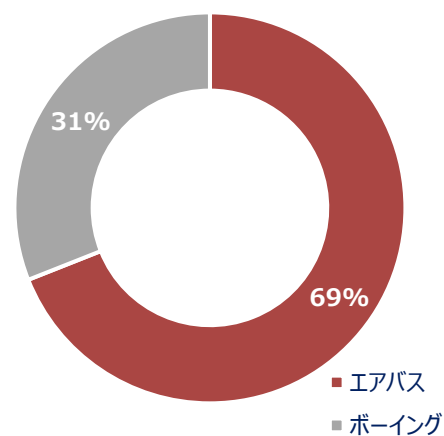
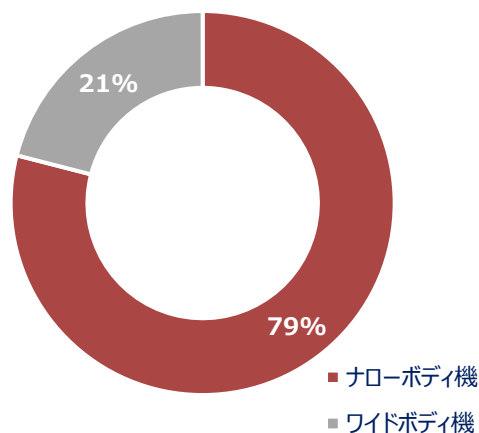
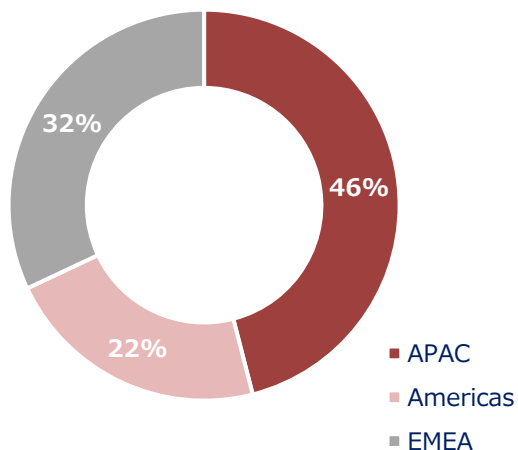
メーカー分布
(機数ベース)



保有機数	66機	発注機数	0機
平均機齢	6.4年		
平均残リース期間	6.1年	管理機数	150機

Avolon

- ✓ オリックス30%出資
(2018年11月取得)
- ✓ 航空機メーカーに大口発注
- ✓ 発注機をリーシング
- ✓ S&P: BBB- *
Moody's: Baa3
Fitch: BBB-



保有機数	538機	発注機数	232機
平均機齢	5.8年		
平均残リース期間	6.9年		2023年3月までに デリバリーされる発注機は 全機リース契約締結済み

*S&Pが2021年12月にAvolonの見通しをBBB-(ネガティブ)からBBB-(安定的)へ引き上げ

3Q累計セグメント利益：682億円 前年同期比 +431億円 (+172%)

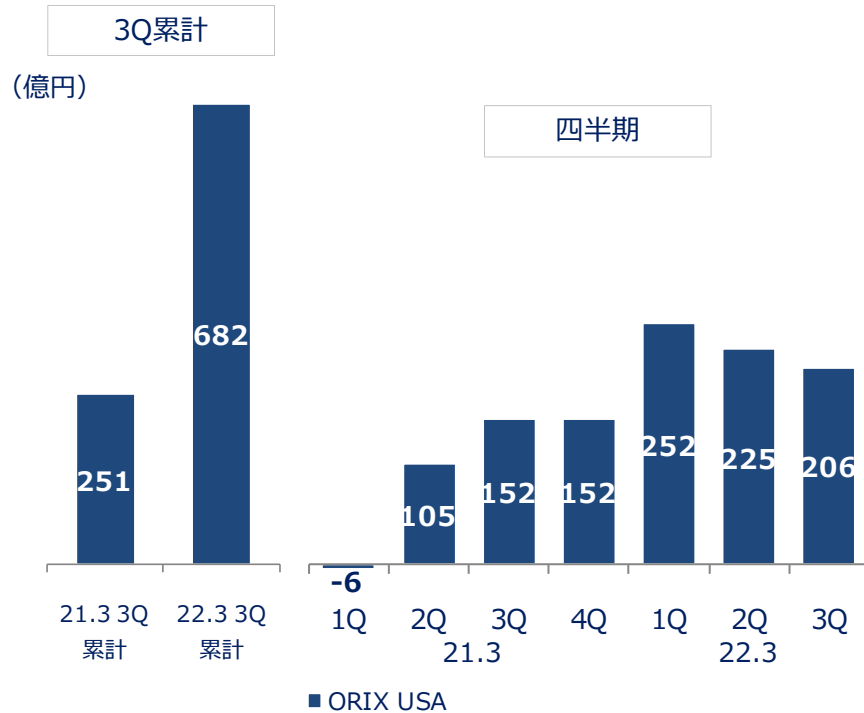
- ✓ PE投資の売却が好調、3Q時点で通期の過去最高益を上回る水準
- ✓ Lument* 等不動産事業およびクレジット事業におけるアセットマネジメントも好調

*不動産ローン組成等を主な事業とするアセットマネジメント会社

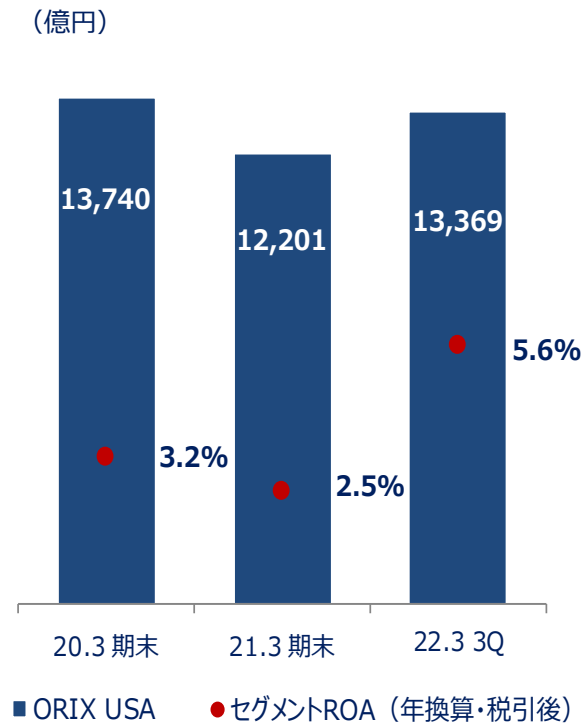
セグメント資産：13,369億円 前期末比 +1,168億円 (+10%)

- ✓ アセットマネジメント事業における売却予定資産の買い入れに加え、為替変動による円換算額の増加で資産増

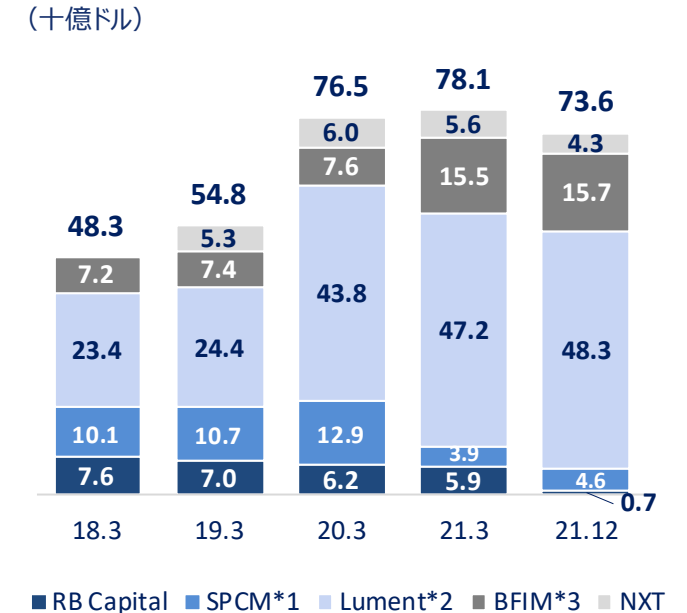
セグメント利益



セグメント資産・ROA



AUM / AUAの推移



*1: Signal Peak Capital Management、旧Mariner
 *2: Red Capital Group, Lancaster Pollard, Hunt Real Estateを統合
 *3: 2020.12にBoston Capitalの運用資産取得完了

- ✓ クレジット、不動産及び事業投資（PE）の各ビジネスにおいて、米国のミドル・マーケット企業に注力
引き続き、これら3つのビジネスそれぞれが、アセットマネジメントビジネスの拡大を目指す（合計AUM/AUA740億ドル）
- ✓ 自己勘定投資を行うとともに、外部投資家へ資産運用および資本市場ソリューションを提供するハイブリッド戦略を展開

(2021年12月末時点)

クレジット	不動産	事業投資（PE）
セグメント資産：67億 USD	セグメント資産：38億 USD	セグメント資産：10億 USD
<p><u>NXT Capital</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ レバレッジド・ファイナンスを中心に、米国のミドル・マーケット企業向け融資残高66億ドル（AUM/AUAを含む） <p><u>ORIX Municipals & Infrastructure</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 高利回り債券（地方債、インフラ関連債権）への投資残高12億ドル <p><u>Signal Peak Capital Management</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ シンジケート・ローン、ストラクチャード・ファイナンス（CLO）の運用残高54億ドル 	<p><u>Lument</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 不動産子会社3社を統合し新ブランドへ ✓ FHA(米連邦住宅局)*¹の指定金融機関として、ローン組成件数が全米1位*² <p><u>Boston Financial Investment Mgmt</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 米国最大手のLIHTC*³（低所得者用住宅税額控除）シンジケーター ✓ 2020年12月、同業大手のBoston Capitalの運用資産を買収 	<p><u>ORIX Capital Partners</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 外部投資家の資金も活用し、ミドルマーケット向けに平均7,500万～2億5,000万ドルのPE投資 ✓ 投資先は、インフラ関連、ITサービス、デジタル・マーケティング、ファクトリー・オートメーション等 ✓ 過去5年で18件のディール <p><u>ORIX Private Equity Solutions</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 過去9年で49件のディール ✓ 平均投資金額は1,000～2,000万ドル

*1 住宅ローンの債務保証をする米国政府機関。 *2 Mortgage Bakers Association's 2020 CRE Originations Rankingsより。

*3 低所得者用住宅の供給促進を目的とした、米国連邦政府の税額控除プログラム。景気の影響を受けにくいマーケット。

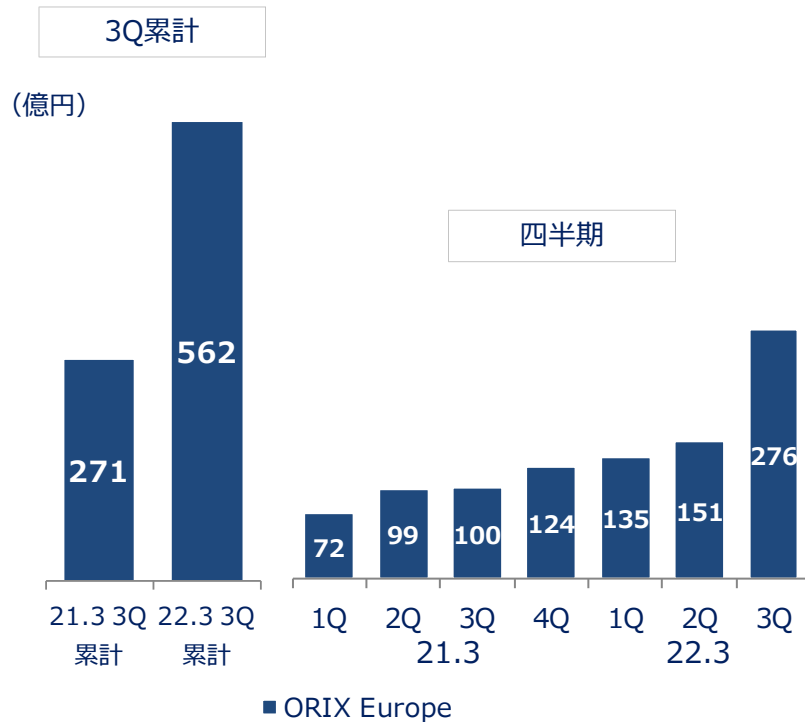
3Q累計セグメント利益：562億円 前年同期比 +291億円 (+107%)

- ✓ 好調なマーケットを捉え、AUMが過去最高を更新
- ✓ パフォーマンスフィーも貢献し、3Q時点で通期の過去最高益を上回る水準

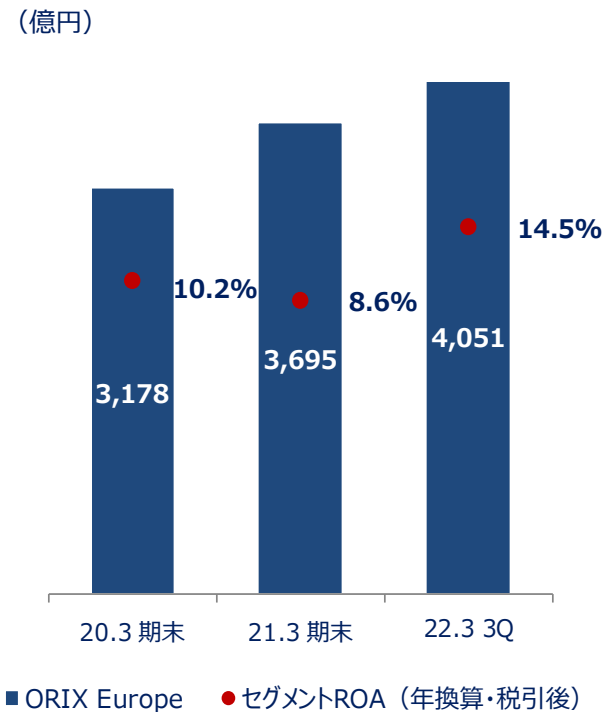
セグメント資産：4,051億円 前期末比 +355億円 (+10%)

- ✓ 投資有価証券が増加

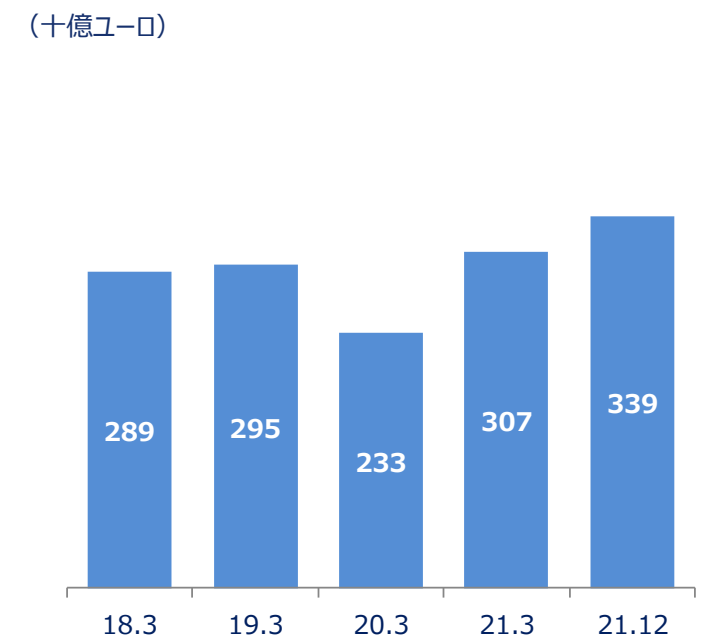
セグメント利益



セグメント資産・ROA



AUMの推移



- ✓ セグメント事業内容：株式・債券や再生可能エネルギー等ファンドの資産マネジメント
- ✓ RobecoとGravis Capital Managementを中心に、ESG投資を積極推進

主要事業会社	本拠地	特徴	設立 (取得)
Robeco	ロッテルダム	株式・債券運用、 サステナビリティ投資の 資産運用会社	1929年 (2013年)
Boston Partners	ボストン	バリュー株投資ブティック	1995年 (2013年)
Harbor Capital Advisors	シカゴ	サブアドバイザーモデル による運用	1983年 (2013年)
Transtrend	ロッテルダム	先物投資顧問会社 (CTA)	1991年 (2013年)
Gravis Capital Management	ロンドン	オルタナティブ資産運用会社	2008年 (2021年)

Robecoは、1990年代よりESG投資をリード
サステナビリティ投資のリーダー

Robeco単体の運用資産総額 (2021年9月末時点)



1,990億ユーロ

うちESG要素を統合した運用資産総額



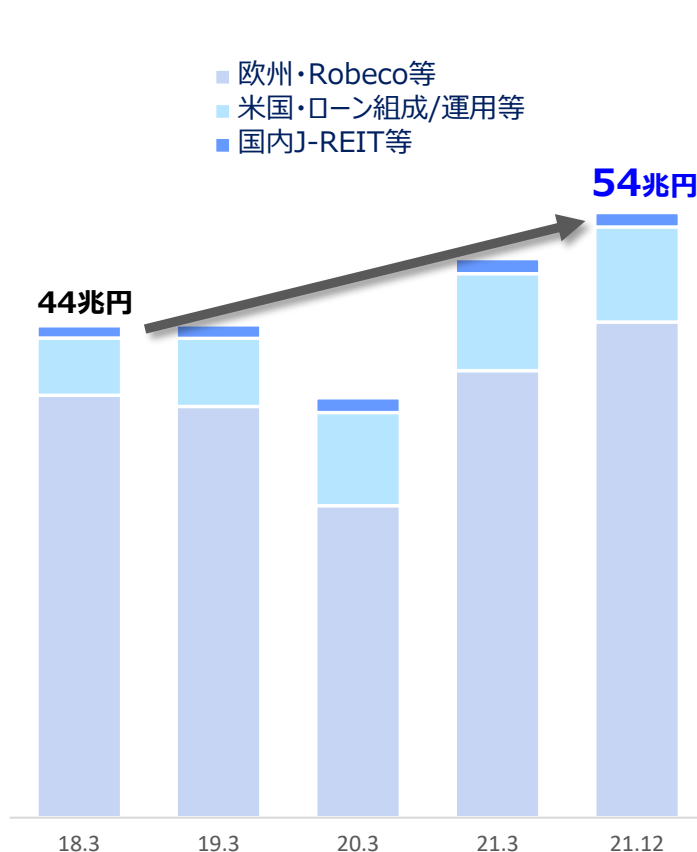
1,750億ユーロ

2050年までにAUMレベルでのカーボンニュートラル達成を目指す
(2020年12月にNet Zero Asset Managers Initiativeへの参画を表明)

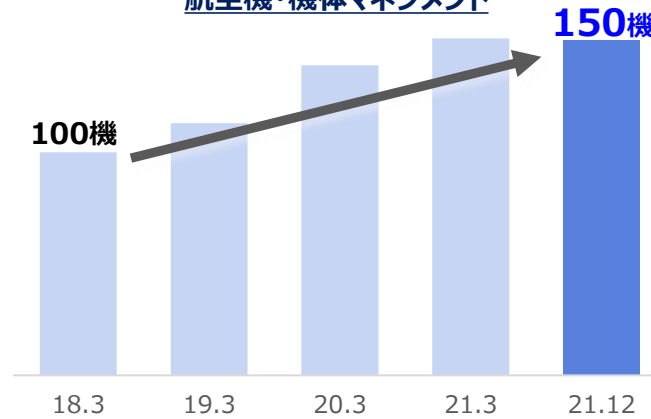
オリックスグループ° アセットマネジメント事業

- ✓ 欧州・米国を中心に資産運用ビジネスを拡大、ベース利益成長
- ✓ 株式、債券、オルタナティブ資産に加え、多様な資産の管理にも注力
(再生可能エネルギー、航空機、マンション管理、自動車は国内トップクラス)

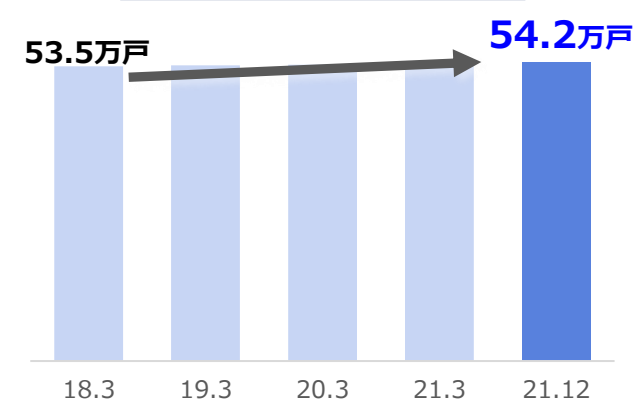
株式・債券・オルタナティブ資産のAUM *1



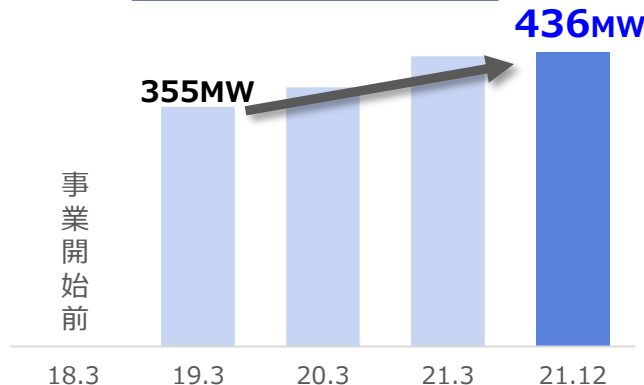
航空機・機体マネジメント



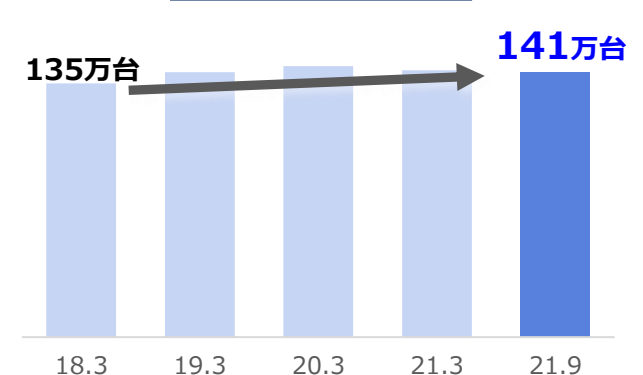
大京グループ・マンション管理受託 *3



メガソーラー発電所・運営管理 *2



自動車・車両メンテナンス



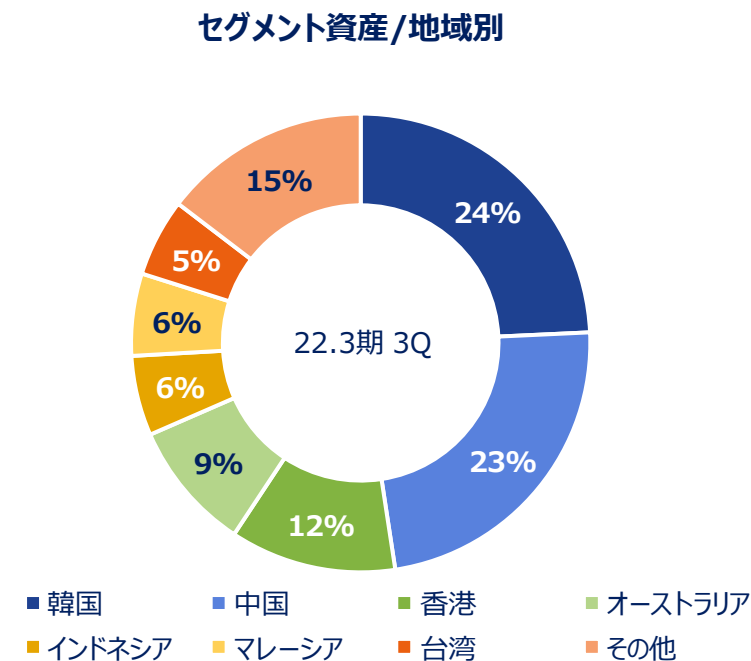
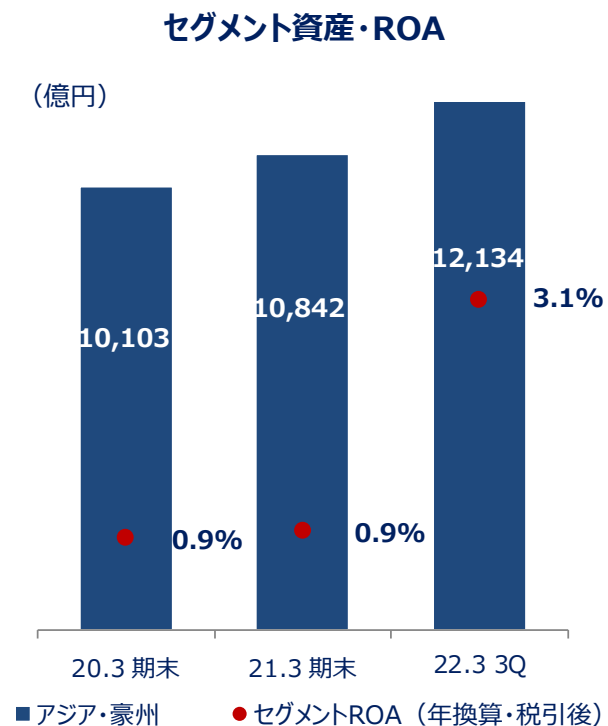
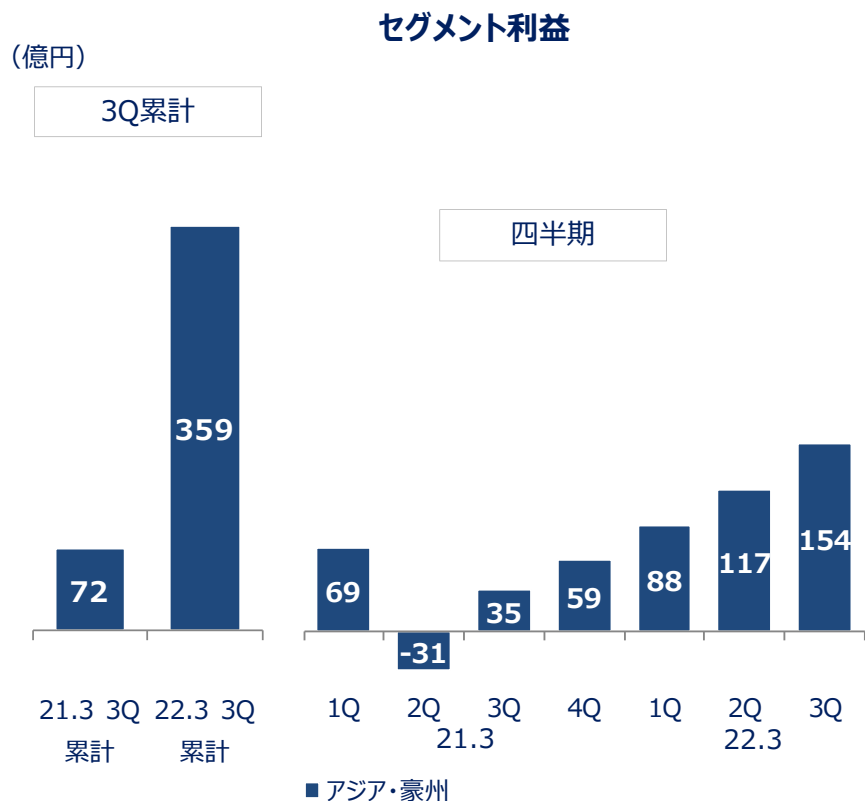
*1 為替はそれぞれ期末時点のレート。 *2 2018年6月メガソーラー発電所の運営管理会社を設立。 *3 2021年12月の管理受託数は2021年3月末の数字。

3Q累計セグメント利益：359億円 前年同期比 +287億円 (+396%)

✓ 韓国、中国で金融収益が伸び、大幅増益

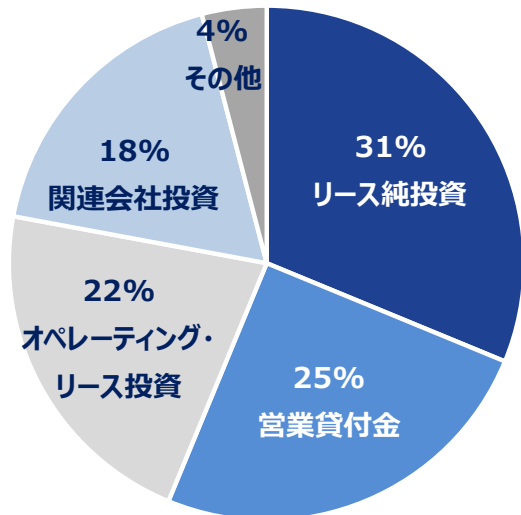
セグメント資産：12,134億円 前期末比 +1,291億円 (+12%)

✓ 韓国、中国でリースの新規実行が伸び、資産が大きく増加
 ✓ 引き続き各国・地域の状況に合わせ資産をコントロール

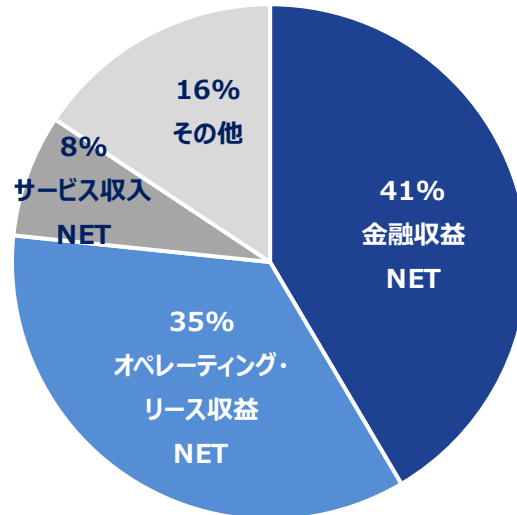


✓ セグメント事業内容：アジア・豪州における金融、投資

セグメント資産（21.3期末）

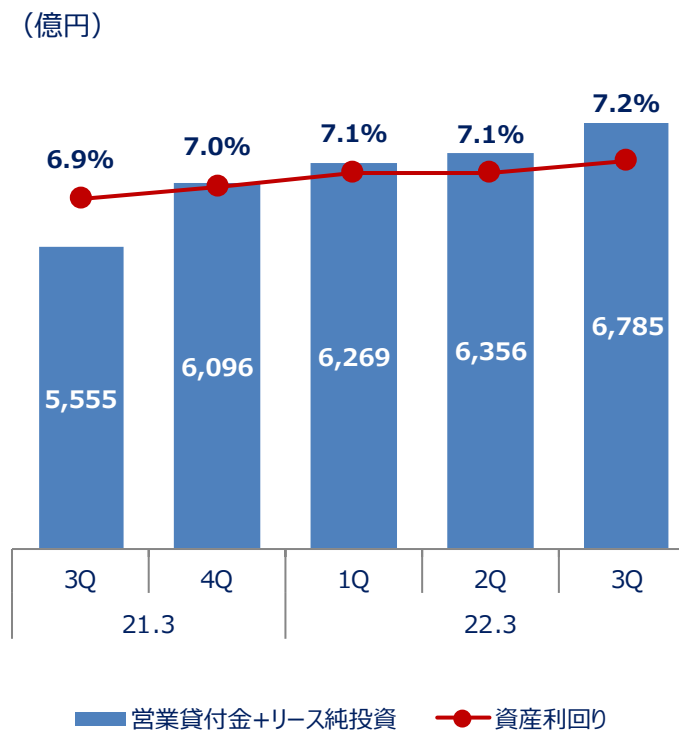


セグメント収益 NET*（21.3期）



*セグメント収益NET：セグメント収益の各項目について、セグメント費用の各項目を差引後の粗利益（販売費および一般管理費控除前）

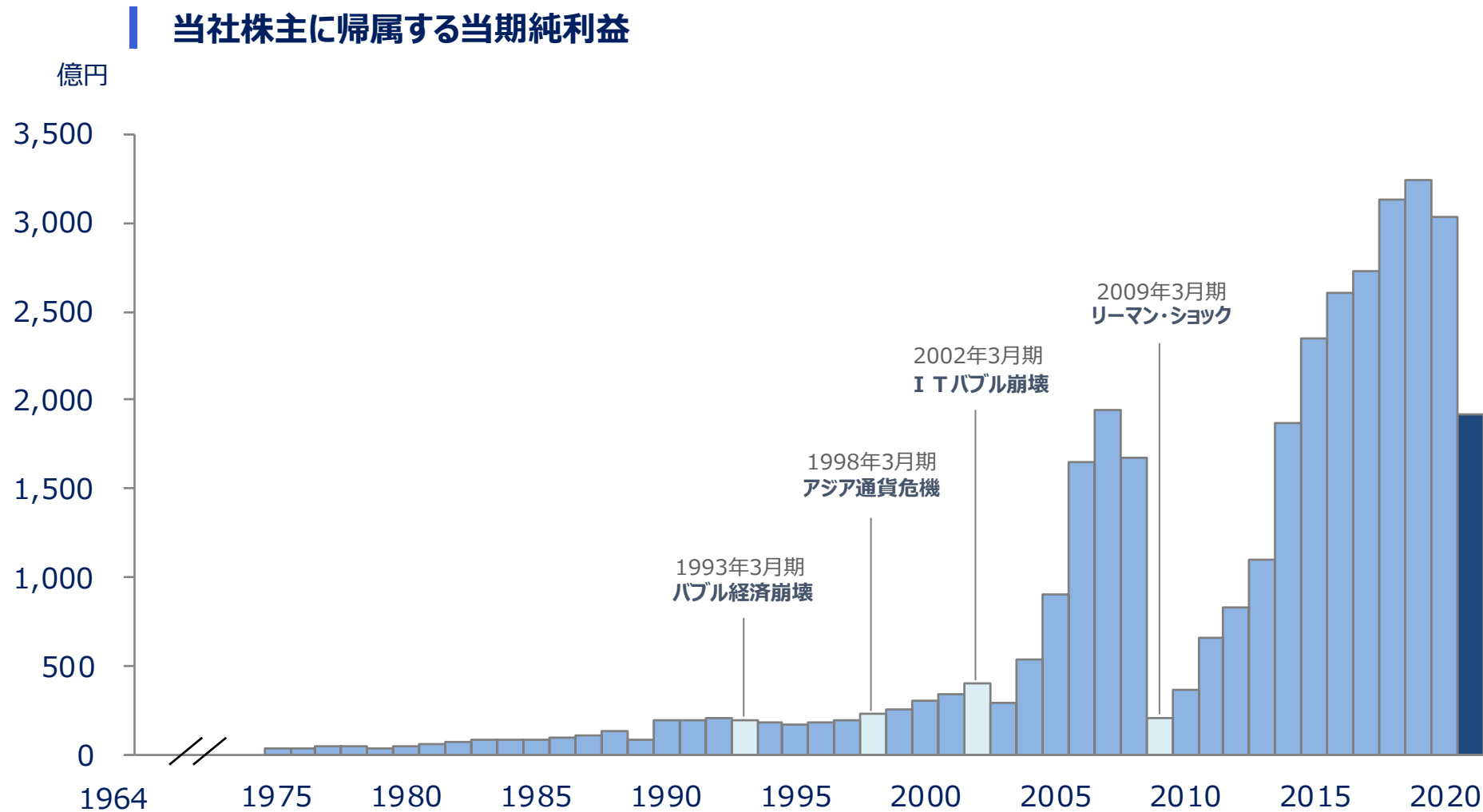
資産利回り



資産利回り = (貸付金利息+リース純投資収益) ÷ (営業貸付金+リース純投資の平残)

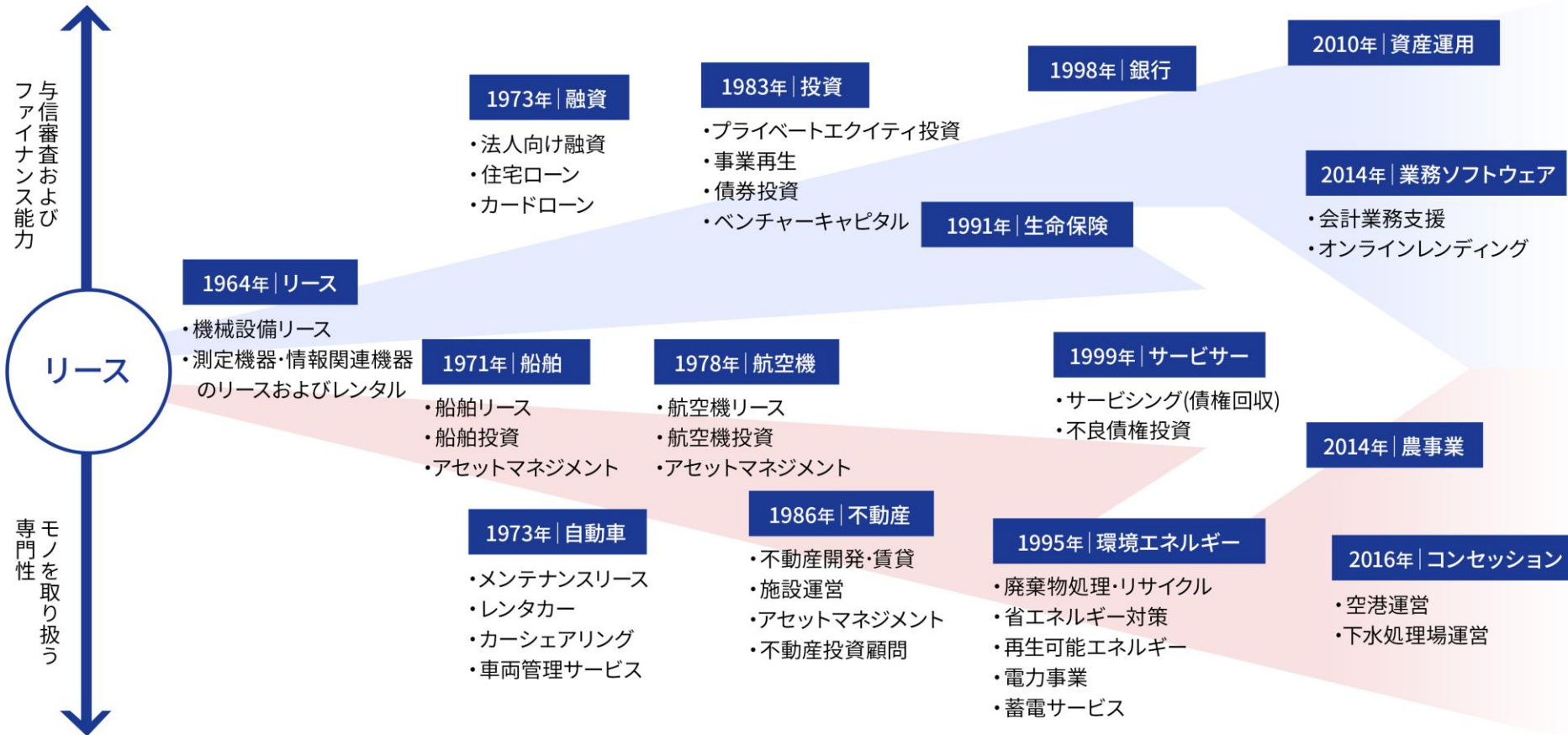
補足資料

- ✓ 設立初年度を除き、56年間毎期黒字を計上

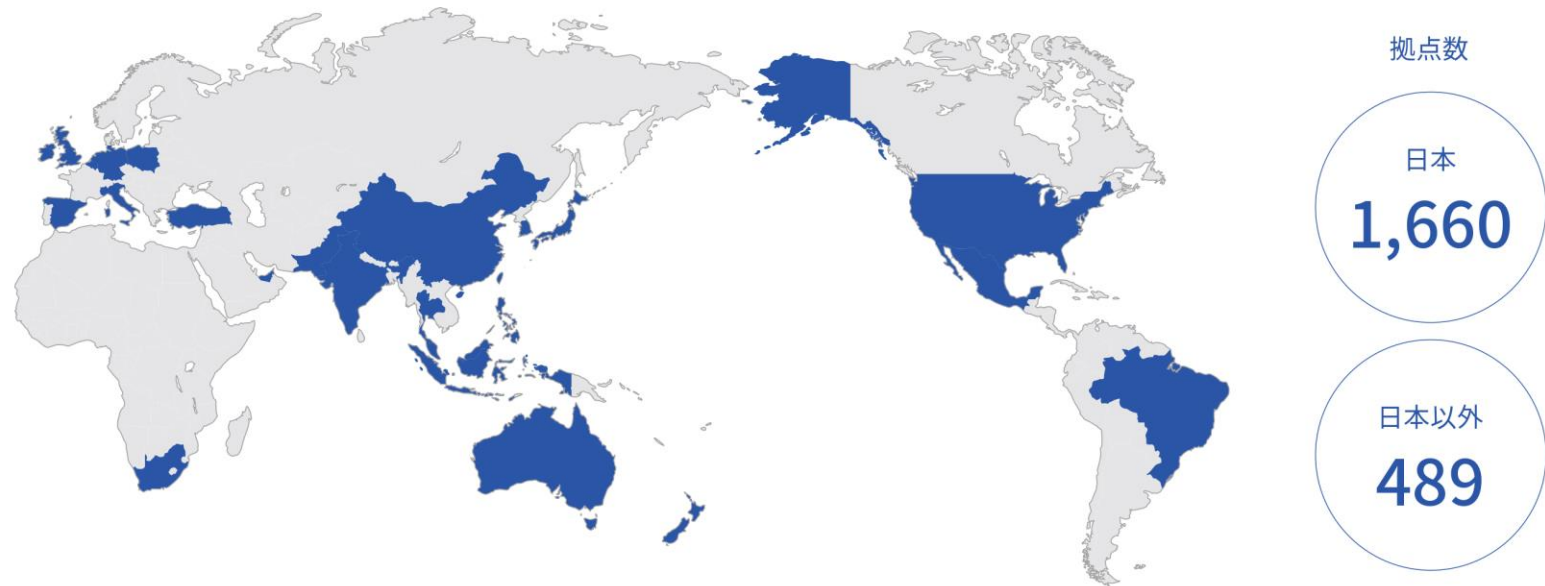


オリックスについて 事業の専門性とグループの総合力

✓ 「金融」と「モノ」の専門性を高めながら、隣へ、そのまた隣へと事業展開



- ✓ 国内で培ったノウハウを元にネットワークを拡大、世界28ヶ国・地域で事業を展開



(2021年9月末日時点)

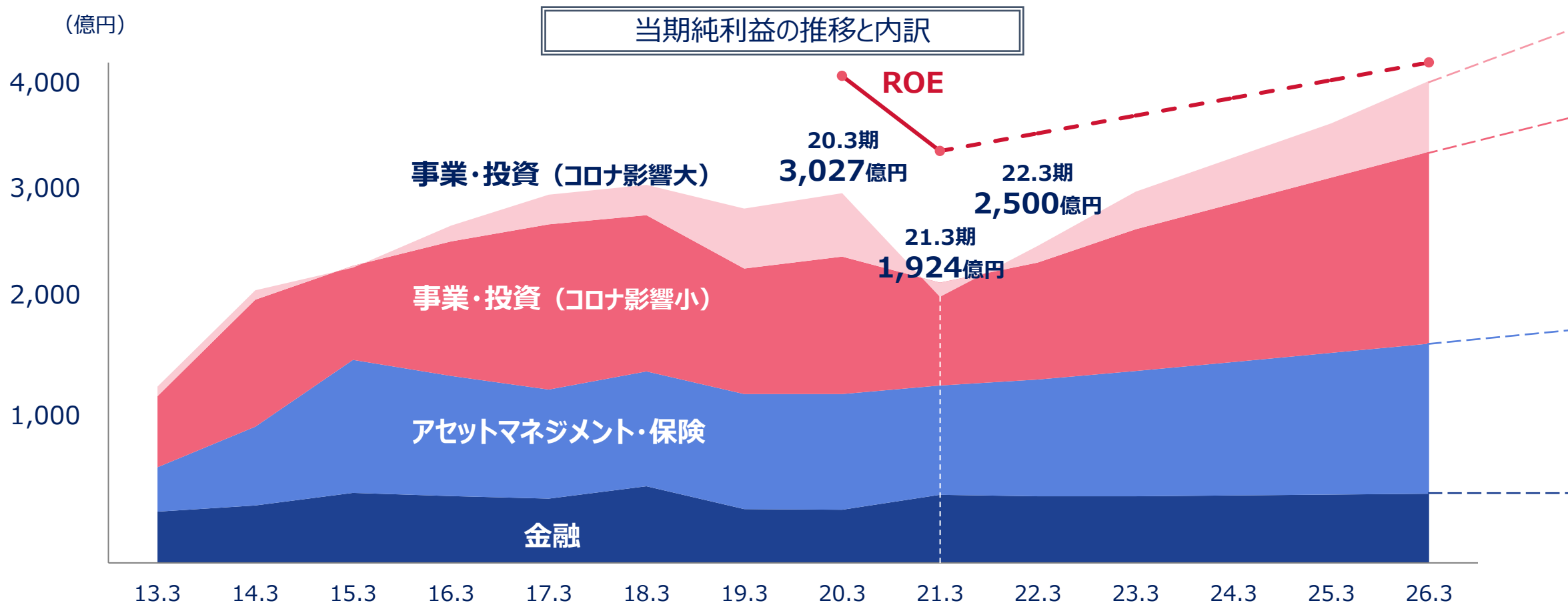
1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代
グローバルネットワークの国・地域数				
7カ国・地域	12カ国・地域	18カ国・地域	26カ国・地域	世界 28 カ国・地域
アジアでのリースを中心としたグローバルネットワークの拡大		グローバルネットワークの拡大継続 航空機関連やエクイティ投資へ事業が多角化		ロベコ買収や、環境エネルギー事業の展開を通じてさらに事業分野が拡大

今期以降の見通し

2021年5月公表資料



- ✓ 22.3期の当期純利益目標は2,500億円。早期に当期純利益3,000億円、中長期的に4,000億円を目指す
- ✓ ROE11%以上に戻すことは、最重要課題



*各項目の構成要素は、P.37をご参照

ポートフォリオの3分類 (P.36の金融、アセットマネジメント・保険、事業・投資の構成要素)

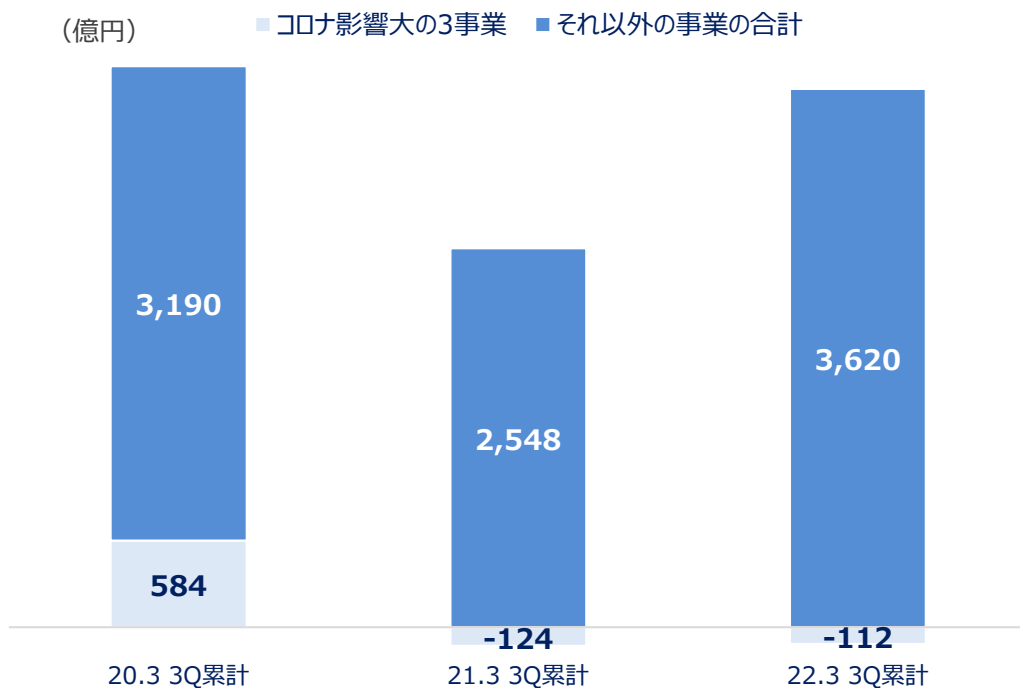
3分類とセグメントのマトリクス

		3分類		
		金融	アセットマネジメント・保険	事業・投資
セグメント	法人営業・メンテナンスリース	法人営業		自動車、レンタル、 サービサー、弥生
	不動産		アセットマネジメント	不動産投資、大京
	事業投資・コンセッション			PE投資
	環境エネルギー			環境エネルギー
	保険		生命保険	
	銀行・クレジット	銀行、クレジット		
	輸送機器			船舶
	ORIX USA		アセットマネジメント、 貸付金、債券投資	PE投資
	ORIX Europe		アセットマネジメント	
	アジア・豪州	リース、貸付金		PE投資

コロナ影響小

コロナ影響大

「コロナ影響大の3事業」とそれ以外の事業のセグメント利益



「コロナ影響大の3事業」のセグメント利益・内訳

(億円)

	20.3期	21.3期	22.3期	20.3期	21.3期
	3Q累計	3Q累計	3Q累計	同期比	同期比
不動産 (運営等) *1	102	▲ 101	▲ 55	▲ 157	+ 46
輸送機器 *2	328	43	32	▲ 296	▲ 11
コンセッション *2	154	▲ 66	▲ 88	▲ 242	▲ 22
合計	584	▲ 124	▲ 112	▲ 696	+ 12

* 1 不動産セグメントにおける投資・運営ユニットのセグメント利益から同セグメントの売却益を差し引いて算出

* 2 輸送機器のうちAvolonは2か月遅れ、コンセッションは3か月遅れでそれぞれ業績を取り込み。

売却益の内訳

✓ 多様な事業から安定的に売却益を計上

売却益*の推移

(億円)

事業部門	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期
不動産	472	② 582	③ 547	184
事業投資・コンセッション	272	8	187	14
ORIX USA	242	376 ⑤	395	289
その他	① 445	106	④ 272	387
合計	1,431	1,072	1,401	874

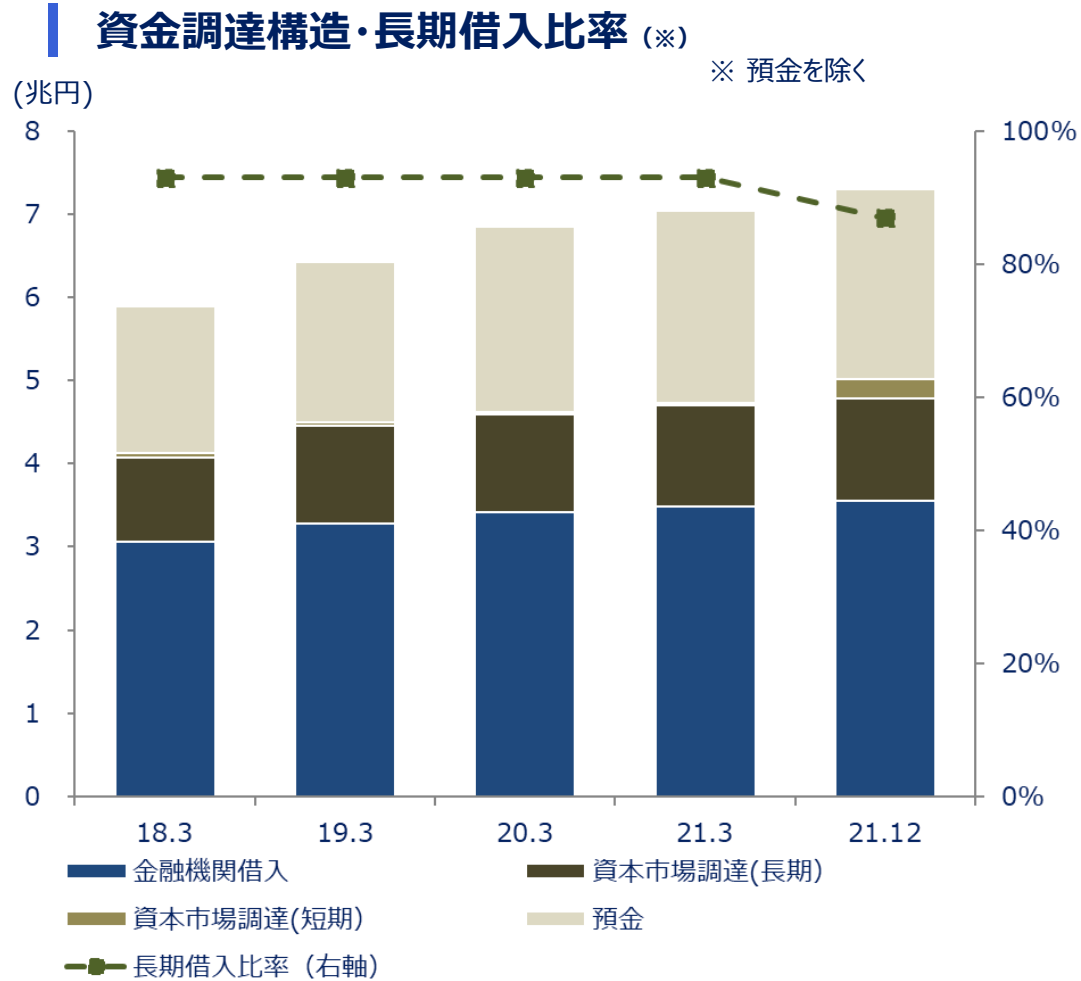
*売却益：賃貸不動産売却益、子会社・関連会社株式売却益、有価証券売却益など

主な事業売却

No.	会社名	売却年度
①	オリックス電力	18.3期
②	オリックス・ゴルフ・マネジメント	19.3期
③	オリックス・リビング	20.3期
④	RobecoSAMの ESG レーティング部門	20.3期
⑤	Houlihan Lokey	18.3期、19.3期、20.3期

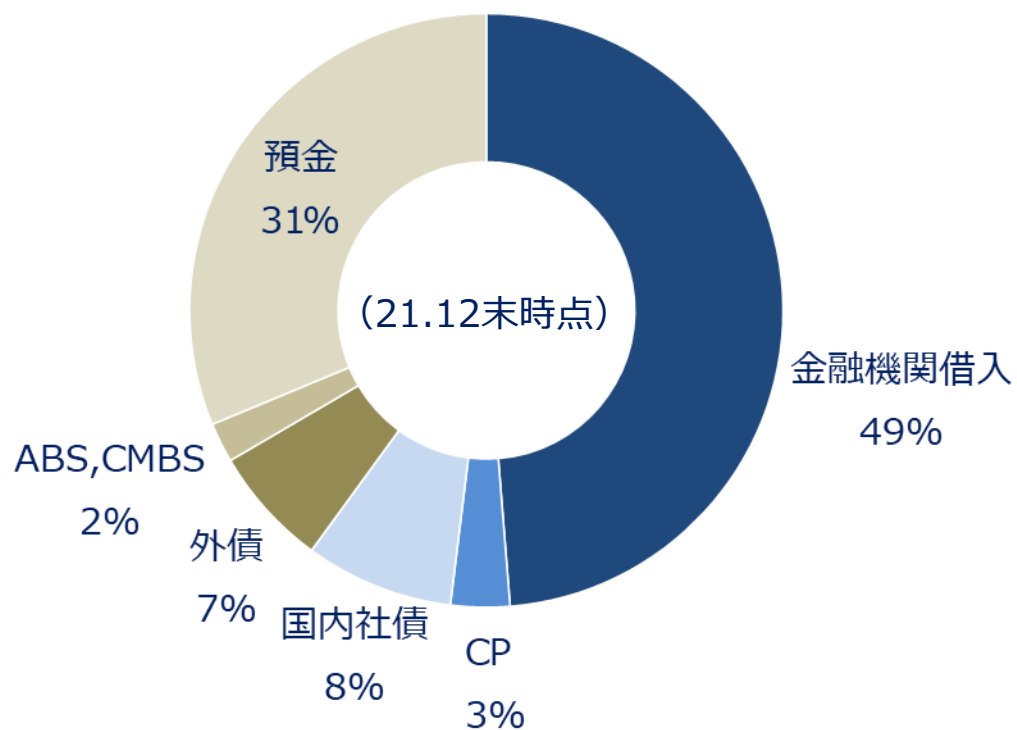
資金調達構造/株主資本使用率

✓ 資金調達手法を多様化、高い長期借入比率を維持



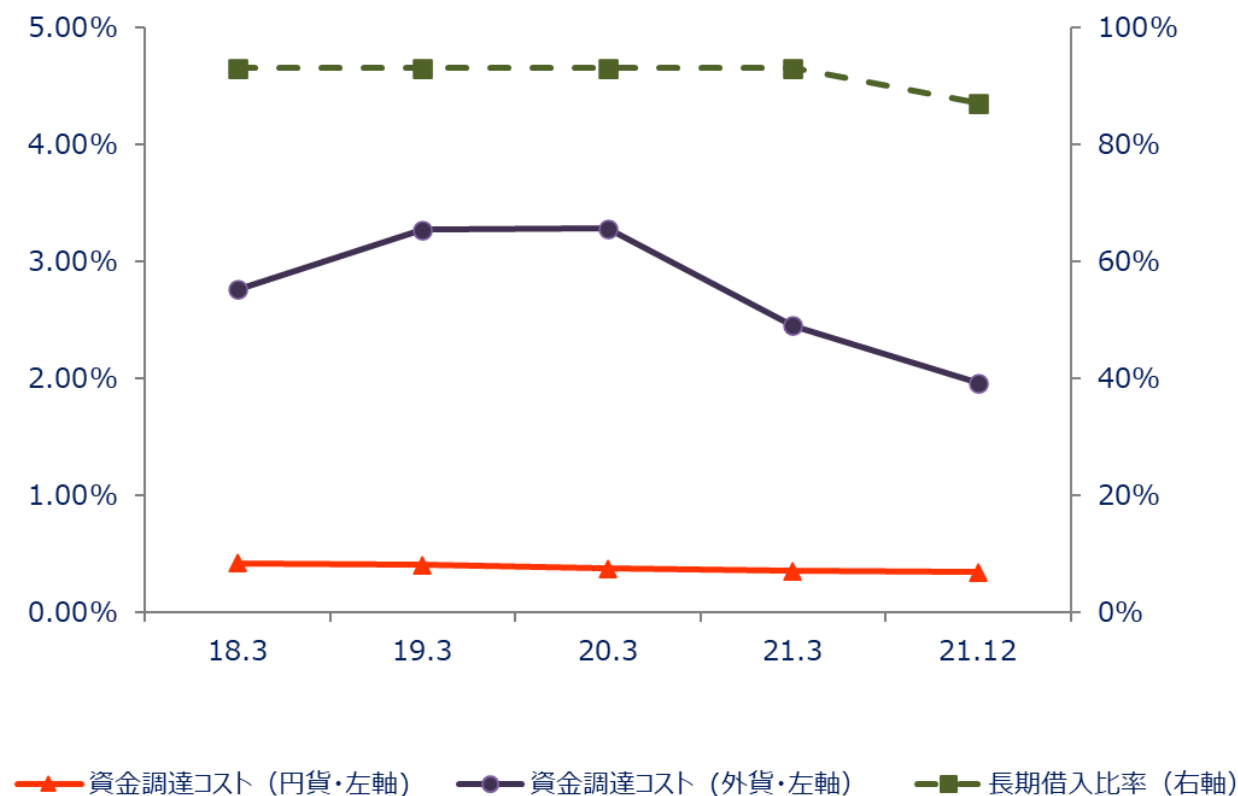
✓ 多様化された資金調達。高い長期借入比率を維持しながらコストをコントロール

資金調達の内訳



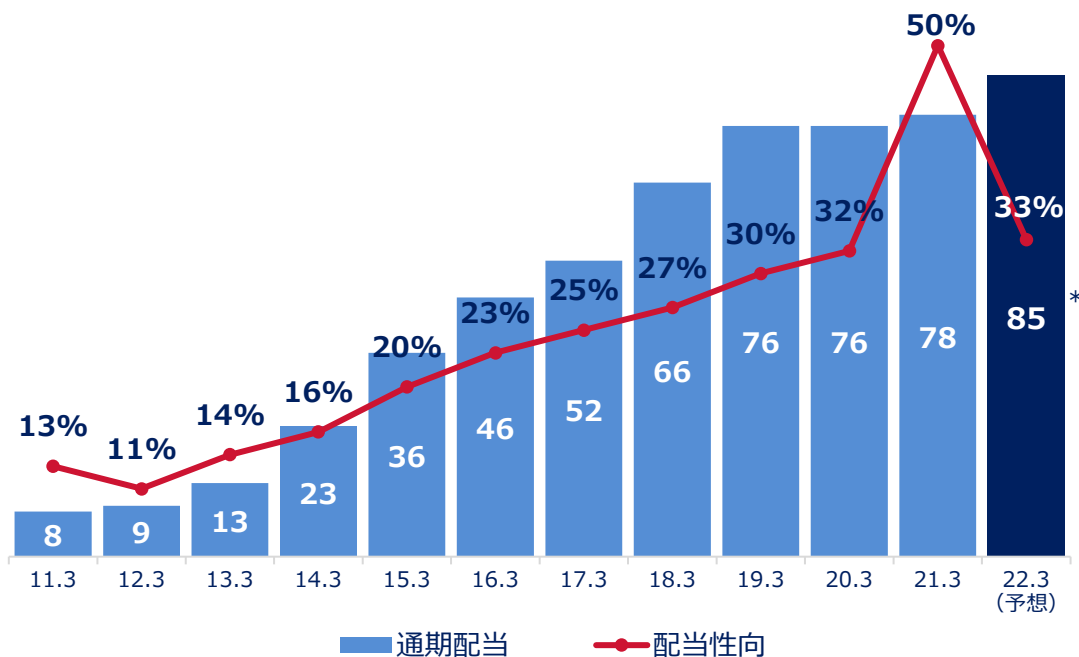
コスト・長期借入比率^(※)の推移

※ 預金を除く



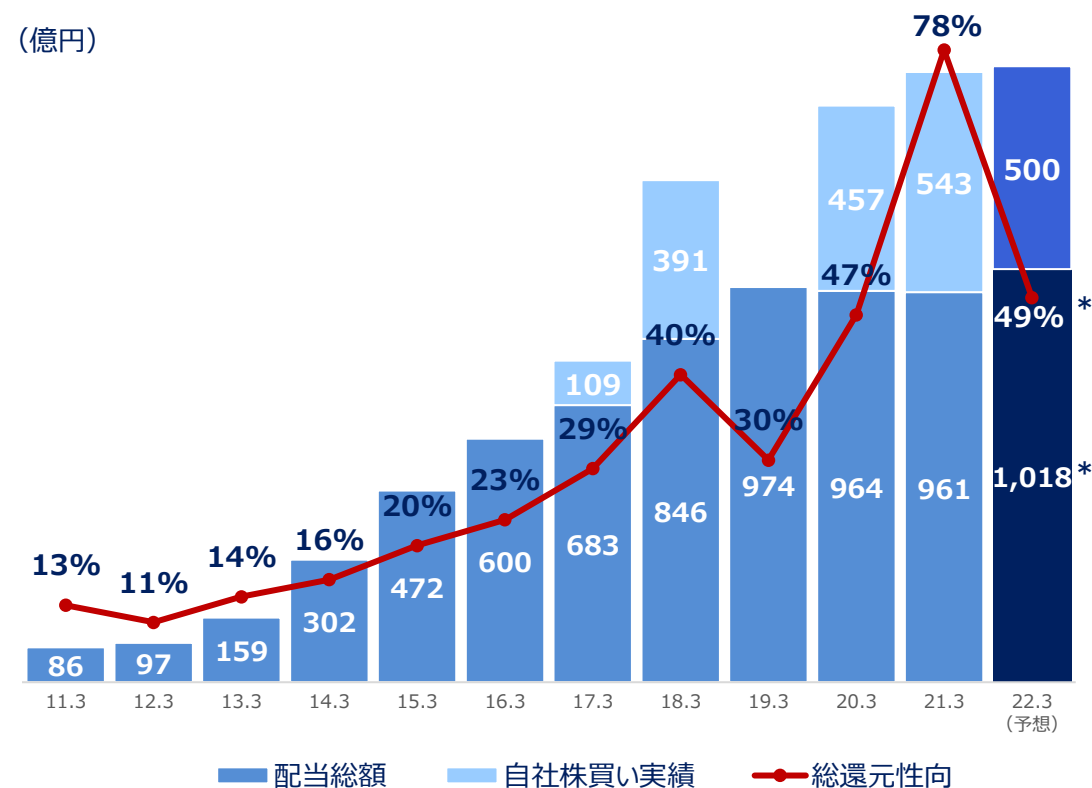
1株あたり配当と配当性向

(円)



自社株買いと総還元性向

(億円)



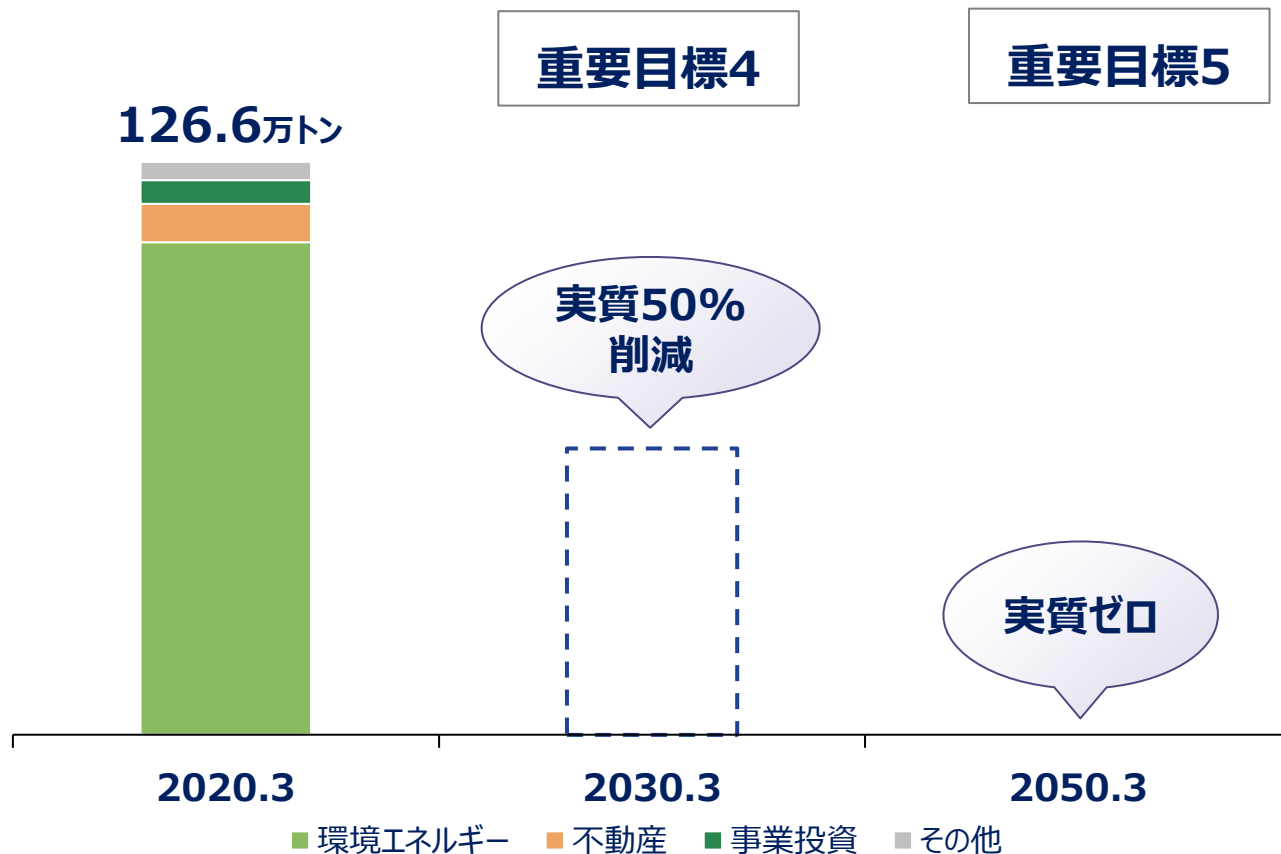
*当期純利益が3,100億円の場合

✓ ESG関連の重要目標を次の通り設定

1. 2023年6月の株主総会までに、取締役会の**社外取締役比率を過半数**とする。
2. 2030年3月期までに、取締役会の**女性取締役の比率を30%以上**とする。
3. 2030年3月期までに、オリックスグループの**女性管理職比率を30%以上**とする。
4. 2030年3月期までに、オリックスグループの**GHG(CO₂)排出量を、2020年度比実質的に50%削減**する。
5. 2050年3月期までに、オリックスグループの**GHG(CO₂)排出量を実質的にゼロ**とする。
6. 2030年3月期までに、**GHG(CO₂)排出産業***に対する**投融資残高を、2020年度比50%削減**する。
7. 2040年3月期までに、**GHG(CO₂)排出産業***に対する**投融資残高をゼロ**とする。

*一部の海外現地法人における化石燃料採掘業やパーム油プランテーション、林業を指す

* 詳細はサステナビリティレポート2021をご参照



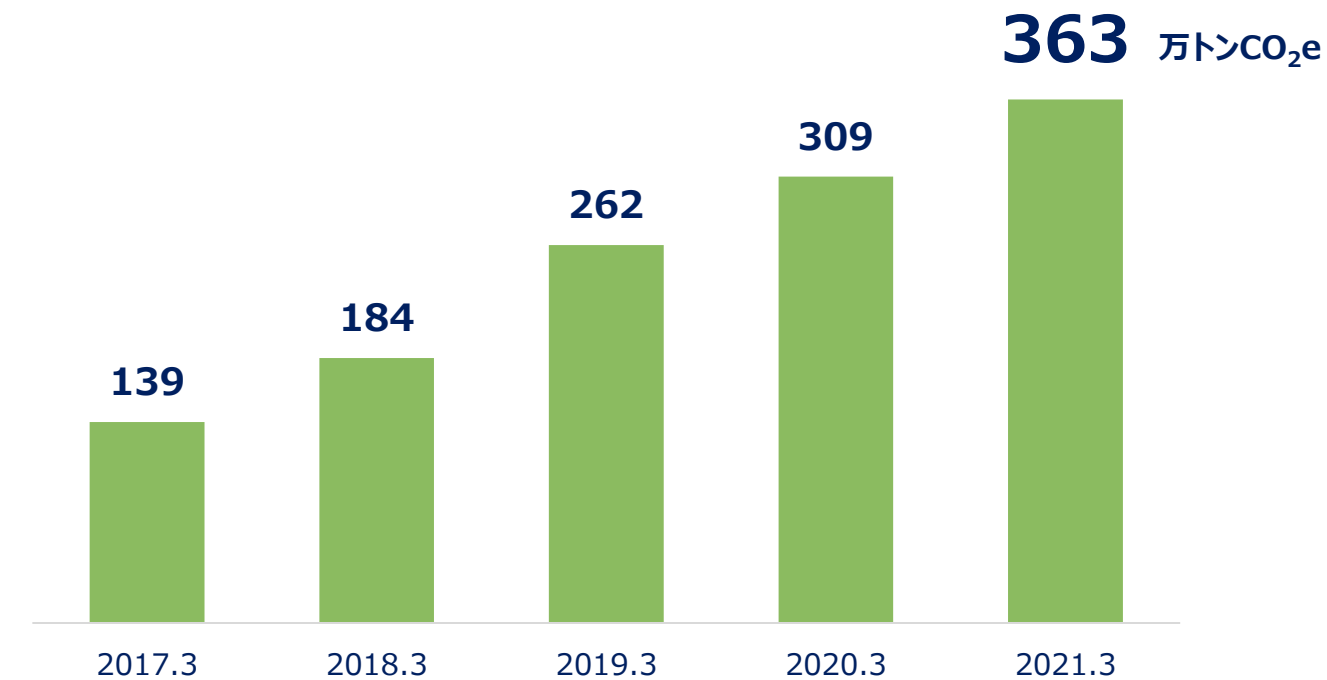
* 詳細はサステナビリティレポート2021をご参照

CO₂排出量削減の対応策

- ① 相馬石炭・バイオマス発電所、及び、ひびき灘石炭・バイオマス発電所の混焼率を最大40%まで引き上げ
- ② 石炭の代替燃料としてブラックペレット、アンモニアなど次世代燃料への転換を促進
- ③ CO₂回収再利用装置の導入、などを検討

- ✓ 主に再生可能エネルギー事業を通じてCO₂排出の削減に貢献
- ✓ その規模はオリックスグループのGHG排出量をはるかに凌ぐ360万トン以上

オリックスグループGHG (CO₂) 削減貢献量の推移



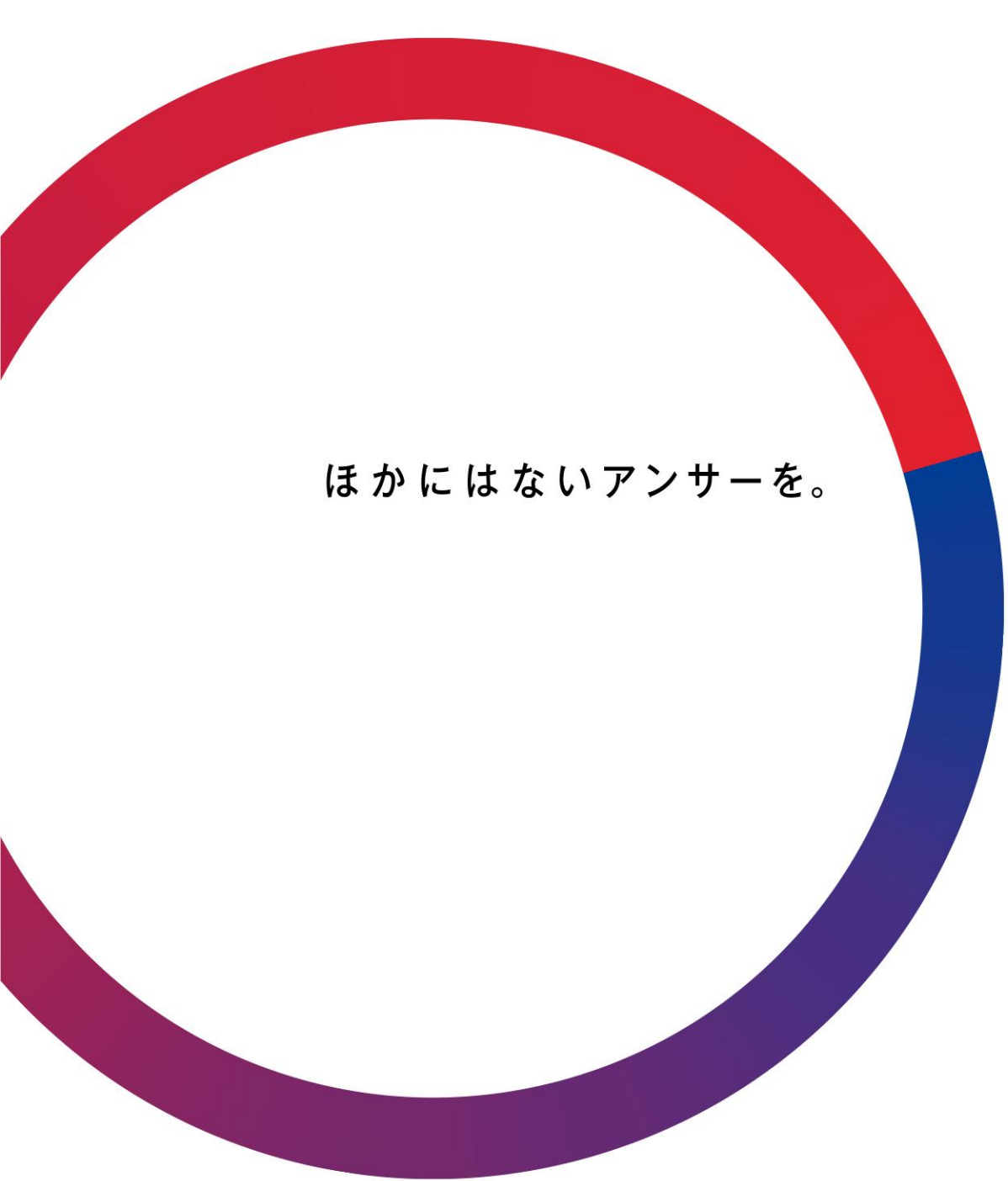
* 詳細はサステナビリティレポート2021をご参照

本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

従いまして、これらの見通しのみで全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることを、ご承知おきください。

これらの見通しと異なる結果を生じさせる原因となる要素は、当社がアメリカ合衆国証券取引委員会（SEC）に提出しておりますForm20-Fによる報告書の「リスク要因（Risk Factors）」、関東財務局長に提出しております有価証券報告書および東京証券取引所に提出しております決算短信の「事業等のリスク」に記載されておりますが、これらに限られるものではありません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。



ほかにはないアンサーを。

オリックスに関する追加情報については弊社ホームページをご参照いただくか、下記までご連絡下さい。

投資家情報

URL: <https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/>

IR資料室

URL: <https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/library/>

オリックス株式会社 IR・サステナビリティ推進部

TEL : 03-3435-3121